

専門部会議事内容結果（要旨）

専門部会名	総合政策部会
開催日時	令和8年3月5日（木） 18時30分 ～ 20時00分
開催会場	名寄市役所名寄庁舎4階第1委員会
出席委員	出席者：結城委員、遠藤委員、石田委員、今野委員、伊藤委員、守岡委員、上西委員 成田委員、松前委員、高橋委員、鎌塚委員、小川委員 欠席者：今野委員
事務局出席者	石橋総合政策部長、櫻田総合政策室長、瀬野総合政策課長、斉藤総合政策課主査、横澤総合政策課主事
審議事項	<p>1 開 会（櫻田総合政策室長）</p> <p>2 部長挨拶（石橋総合政策部長） 明日からJOCはじまるが、この時期にこんなにきれいなコースはないと褒められる。名寄市に雪がある価値がより一層出てきていると感じている。 今日は計画の基本構想について議論を行う。皆さんが感じたことを率直に意見として出していただきたい。</p> <p>3 議 事 (1) 第3次総合計画における基本構想について（瀬野総合政策課長）</p> <p>4 そ の 他（瀬野総合政策課長） 今後のスケジュールについて説明</p> <p>5 閉 会（櫻田総合政策室長） 頂いた意見を基に事務局にて修正案を作成。 改めて部会でご確認いただく。</p>

<p>発言内容</p>	<p>○基本構想全体の質問</p> <p>■委員：「多様な主体」という言葉が基本理念と将来像で意味合いが違うのが気になる。「多様な主体」はどのようなものか。</p> <p>◎事務局：将来像の「主体」はまちづくりのプレイヤーの意味合いで使っている。基本理念のつながりづくりの「プレイヤー」も同じものを指している。基本理念でしっかり説明するようにしたい。</p> <p>■委員：外国人も市内に増えている。多様なバックグラウンドの人が良いと思えるという視点が良いのでは無いか。</p> <p>■委員：「主体」という言葉を「担い手」に替えられないか。</p> <p>◎事務局：「担い手」という表現しっくりくる。検討する。</p> <p>■委員：「主体」という表現がわかりにくいかもしれない。</p> <p>■委員：基本目標5に大学の文言が出てこない。将来人口が少ないまちに若年人口が千人いることは重要なことだと思う。</p> <p>◎事務局：令和9年度から法人化するが、行政計画に記載することに違和感ないか。</p> <p>■委員：地域とのつながりを大事にするのであれば、大学を記載することはいいのではないか。市全体の計画なので記載していくべき。</p> <p>■委員：「担い手」という言葉を大学としての計画で使っていこうというアイデアであるが、その観点でいいのでは。</p> <p>■委員：行政がやっていることだけでは無く、名寄市にある資源を活用していくべき。</p> <p>■委員：29ページの土地利用の考え方がすごく具体的な内容である。「空間活用」など少し表現を変えてもいいのでは。</p> <p>■委員：ゾーンなどの表現がいいのでは。</p> <p>■委員：基本目標2の「高齢者や障害者が社会から孤立する」じゃなくて安心して暮らせるような夢を持てる表現に変えてはどうか。</p> <p>■委員：繋がりという言葉を使えないか。社会とのつながりなど。また、「高齢者や障害者」だけでなくもっと多様なつながりを表現する言い方でもいいのではないか。</p> <p>○将来像に関する意見</p> <p>■委員：市民ワークショップ自分も参加していた。名寄のまちの良さを参加者が把握していたと感じた。本会議で柔軟に考えて出し合ってもいいのではないか。</p> <p>■委員：どうしてこのキャッチフレーズにしたか。</p> <p>◎事務局：ワークショップで出たキーワードを基に、若い人が多かったことから堅くならないように将来像を作成した。キャッチコピー的な言葉と自然、つながりの3つのキーワードをポイントに作成した。</p> <p>◎事務局：キャッチコピーのようなものを入れるのは初めてだと思う。キャッチーでわかりやすいが、一方で「じゃなく」という表現がどうかと言う意見もある。「ここでいい」から「ここがいい」へ、など違う表現もあるかと思う。</p>
-------------	--

<p>発言内容</p>	<p>■委員：キーワードで自然がたくさん出てきているが、皆さんはどこに自然を感じているか。ワークショップの中でも自然というキーワードが多く出てきている。自分はあまりイメージができていない。基本理念から将来像につなげると考えると、自然は基本理念にない。</p> <p>■委員：自分の子どもは内地に行っている。名寄市は農地がまちに隣接している。四季の風景が農地の様子でわかる。稲の黄金色で秋だとわかるように作物が成長する段階がわかる。都会ではわからない。暮らしていると感じることは少ないが自然と触れ合っている。</p> <p>■委員：令和42年には人口が1万人を切る。不安なのは老後の状況である。面積があるのに人が少なくなるとインフラが間に合わなくなる。ここで住んで良かったというフレーズは良いと思うが、人口減に対応していくために今住んでいる人が死ぬならここで死にたいと思えるまちがよいのではないかと。定住しなくても親が名寄市に住んでいれば子どもが様子を見に来るだけでも経済効果があると思う。今住んでる人に良かったなと思って貰えるまちづくりが必要ではないか。「ここがいいじゃなく、ここがいい」というフレーズはいいと思う。</p> <p>■委員：他の自治体の将来像を見るとネガティブな言葉から始まるまちはない。「ここがいい」というポジティブな言葉が最初に来る方がいいのでは。</p> <p>■委員：若者が率直な気持ちで書いたのかなと思う。自分的にはいいと思う。</p> <p>■委員：「ここがいい」というのはいいと思うが、抽象的なので「名寄がいい」がいいのではないかと。</p> <p>■委員：読み取りによっては「ここ」は家族など居場所とも読み取れる。</p> <p>■委員：抽象的でいいと思う。名寄というと風連や智恵文はどうなのになってしまうのではないかと。</p> <p>■委員：自然をPRできていないのがもったい気持ちもある。「豊かな自然を生かす」ような表現にできないか。</p> <p>■委員：生きた自然などの表現もいいのでは。</p> <p>■委員：生きた自然と人のつながりを活かしたなどの表現がいいのでは。</p> <p>■委員：農業の話をする、今年3組の新規就農者がいる。どういつながりがあるかいうと、声かけをしたり、会合に参加してもらったり、鳥獣の会合でも紹介をしている。就農して何年か経った方は新規就農者の力になれといっている。それが口コミで広がっていく。地域に紹介しながら地域になじんでいくのが必要。そういう場をどんどん作っていったらどうか。輪を広げていく。研修のようなもの。企業の努力も必要。</p> <p>■委員：自然よりも四季という言葉使えないか。雪、営みなどキーワードとしていいのではないかと。</p> <p>■委員：農村地域の風景は人の営みを先に言うと良いのでは「人の営みと豊かな自然」など</p>
-------------	---

発言内容

○基本理念に関する意見

- 委員：人のつながりは重要と思うが、ご時世的に声をかけづらい状況もある。中学校で農業の講演をしたが、顔覚えてねと言ってきた。声をかけると通報されてしまう。小中高校生と地域のつながりを行政も間に入れて何かできないものか。
- 委員：2次まで表現があった暮らしづくりの表現が今回の基本理念に感じられない。
- 委員：暮らしづくりは幸せづくりに吸収されているという認識だと理解している。
- 委員：考え方は理解できるが、しっかりと表現しないと伝わらないのではないか。
- 委員：基本理念について「ひとづくり」と「つながりづくり」について、ここからどのように「暮らしづくり」が繋がるのか見えるとよいのでは。

第1回 名寄市総合計画審議会総合政策部会

日時:令和8年3月5日(木)18時30分～
場所:名寄市役所名寄庁舎4階第一委員会室

1 開 会

2 部長挨拶

3 議 事

(1)協議事項

第3次総合計画における基本構想について

4 その他

5 閉 会

第1回 名寄市総合計画審議会総合政策部会

No.	団体等	総合政策部会	各部会	氏名
1	名寄市総合計画審議会会長	部会長	—	結城 佳子
2	名寄市総合計画審議会副会長	副部会長	—	石田 十羽完
3	名寄市総合計画審議会副会長	副部会長	—	遠藤 貴広
4	総務・市民生活環境・教育文化スポーツ部会	—	部会長	今野 聖士
5		—	副部会長	伊藤 美和子
6		—	副部会長	守岡ダニエル武雄
7	保健・医療・福祉部会	—	部会長	上西 靖子
8		—	副部会長	成田 勇一
9		—	副部会長	松前 聡美
10	産業経済・都市基盤整備・交通部会	—	部会長	高橋 直樹
11		—	副部会長	小川 和則
12		—	副部会長	鎌塚 英明

名寄市総合計画 (第3次)

【基本構想】

《令和9年度～令和16年度》

たたき台

令和8年2月
名寄市

目 次

I 総論	1
1 計画の策定にあたって.....	2
2 名寄市の概況.....	6
3 時代の潮流.....	10
4 市民意識とまちづくりの課題.....	13
II 基本構想	23
1 基本理念(案).....	24
2 将来像(案).....	25
3 基本目標(案).....	26
4 施策の体系(案).....	28
5 土地利用の考え方(案).....	29
6 将来の展望.....	30

I 総論

1 計画の策定にあたって

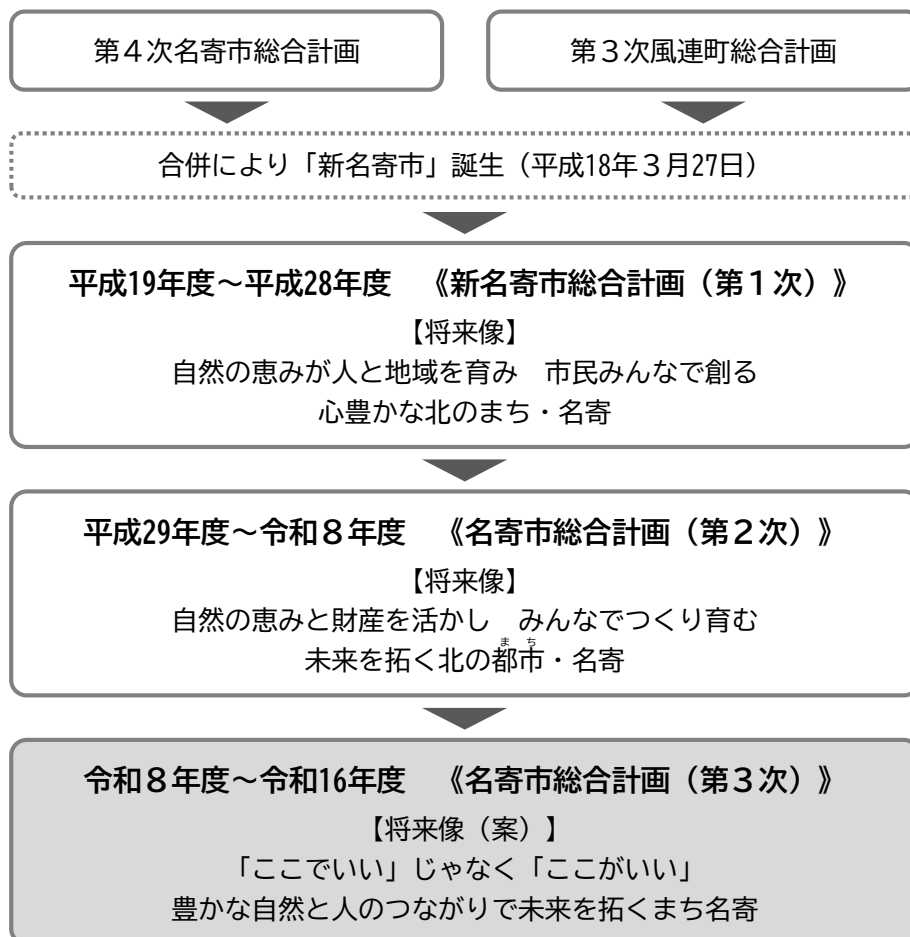
(1) 計画策定の趣旨

本市では、総合的かつ計画的な市政の運営を図る「総合計画」を最上位計画に位置付けて策定し、国や北海道等の動向も注視しながら、それぞれの時代や社会の潮流に合った形で、施策・事業を推進してきました。

このたび、これまで推進してきた「名寄市総合計画(第2次)」が令和8年度末で終期を迎えることから、時代や社会の大きな潮流に沿った形で、計画内容を精査し充実させることで、関係機関や各種団体、市民等との協働・連携により、本市の明るい未来を築くことができるよう、「名寄市総合計画(第3次)」(以下、「本計画」という。)を地方版総合戦略と一体的に策定しました。

本計画の各施策を着実に実施することにより、これからも誰もが住み続けたいと思えるまちを築き、次の世代へ引き継いでいけるよう、持続可能なまちづくりを目指します。

■これまでの総合計画



(2) 計画の位置付け

本計画は、市民主体のまちづくりの実現を目的とした「名寄市自治基本条例」に基づく市の最上位計画として位置付け、本市が目指す将来像とその姿を実現するための方向を示すために定めるものです。

また、本計画は、人口減少という市が直面する大きな課題に対する方向性や取組を示すものでもあることから、人口減少抑制を主眼として策定されてきた「名寄市まち・ひと・しごと創生総合戦略」と一体的に策定し、地方版総合戦略としても位置付けます。

(3) 計画の役割

本計画は、全ての分野を対象とした総合的で計画的な指針となるよう次の役割をもっています。

《総合計画の役割》

役割1:各施策分野における政策及び事業の根拠

行政運営の基本指針として全ての施策や事業の根拠となる最上位計画です。各分野の政策及び事業は、総合計画に根拠を置き、常に総合計画との調整を図りながら進行管理をします。

役割2:名寄市を経営していくための総合指針

めまぐるしく変化している社会経済情勢を的確に捉え、適切な役割分担による市民との協働や民間のコスト意識の高さを取り入れるなどの“行政経営”を実現するための指針が必要です。

総合計画はまちづくりを進める行政経営の指針としての役割を担います。

役割3:市民のまちづくりの共通目標

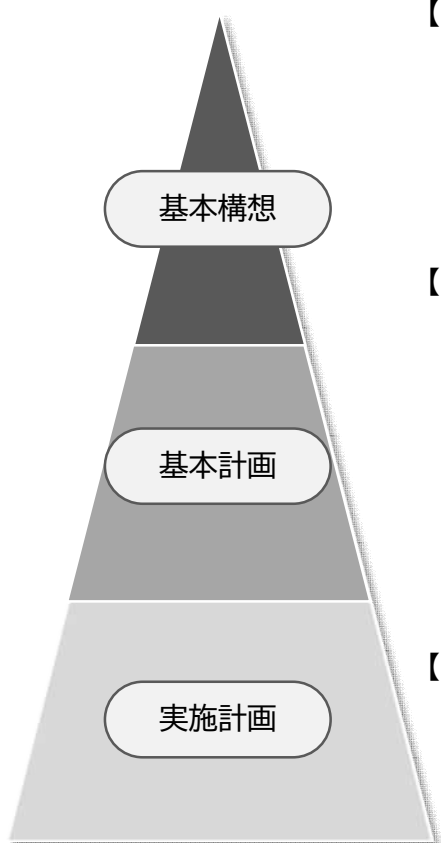
まちづくりにおいては、民間と行政が「目標」とそれを達成するための「手段・方法」を共有し、力を合わせ行動していくことが重要です。

総合計画は地域活性化のための市民の主体的なまちづくり活動の基本指針としての役割を担います。

(4) 計画の構成と期間

総合計画は、社会経済の動向を展望しながら、将来に向けて本市が目指すまちの姿を示すものですが、一方で、本市を取り巻く環境の変化にも的確に対応することが求められます。

今後も総合計画に基づく市政運営を推進していくためには、安定性と実効性を併せ持つ総合計画とする必要があることから、本計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」により構成し、その期間と内容を次のとおり定めます。



【基本構想】市が目指す都市像とまちづくりの基本方針

社会経済情勢の動向を展望しながら、長期的な視点で本市が目指す都市像を明らかにするとともに、「まちづくりの目標」を定め、その目標の実現に向けた基本的な方針を示します。

【基本計画】目指す都市像を実現するための基本的な施策

社会経済情勢の変化に柔軟に対応するため中期的に具体的な施策を定めるとともに、基本構想に掲げる各分野の基本的な方針に基づく必要な施策を分野ごとに具体的に示します。

さらに、人口減少や少子高齢化などへ対応するために、計画期間中に重点的に取り組む施策を設定します。

【実施計画】基本計画を推進するための具体的な事業

基本計画で示した分野ごとの施策を具現化するため、施策の体系ごとに必要とされる事務事業を定め、短期間で必要な見直しを行います。

■ 計画期間

令和9年度 (2027)	令和10年度 (2028)	令和11年度 (2029)	令和12年度 (2030)	令和13年度 (2031)	令和14年度 (2032)	令和15年度 (2033)	令和16年度 (2034)
基本構想(8年間)							
前期基本計画(4年間)				後期基本計画(4年間)			
前期実施計画(4年間) (1年ごとにローリング)				後期実施計画(4年間) (1年ごとにローリング)			

(5) 計画策定の基本姿勢

① 市民参加の促進

計画策定段階から積極的な情報発信や、計画づくりへの参画の場の確保に努め、市民と市が一体となって計画づくりを進めます。

② 社会経済情勢の変化への対応

人口減少・高齢化の進展や地域経済の低迷、気候変動に起因する自然災害の頻発・激甚化、市民生活の多様化に伴う地域コミュニティの在り方、デジタル化や脱炭素化の加速など、社会経済情勢の変化を捉え、これからの時代に対応できる計画を目指します。

③ 地域資源の活用

本市が有する自然環境や、市立大学、市立総合病院をはじめ有形無形の地域資源を活かした計画を目指します。

④ わかりやすさと実効性の確保

総合計画は、市民と市の協働によるまちづくりの行動指針であるため、簡素でわかりやすい内容や表現に努め、市民にとってわかりやすい計画を目指します。

また、公共施設の老朽化や今後とも厳しい財政状況が見込まれる中、施策の選択と重点的な施策展開を図るとともに、目標や指標等を掲げ、分野ごとに推進する個別計画に連動させ、実効性のある計画を目指します。

⑤ ウェルビーイング(Well-Being)の向上を目指す計画づくり

ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良好な状態であることを意味する概念で、広義の幸福・多面的な幸せを表す言葉です。

市民の幸福度について、市民アンケート等で意見聴取し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感(Well-Being)」を指標化した「地域幸福度(Well-Being)指標」をもとに、市民目線に立った計画策定を行います。

(6) 計画の進捗管理

施策及び事務事業の達成状況などを客観的に評価する行政評価制度による進捗管理を実施するとともに、社会経済情勢の変化への対応や行政評価の結果等を踏まえて行う総合計画実施計画ローリングにより、本計画の着実な推進を図ります。

また、実施計画ローリングについては、毎年度、基本計画期間中の事務事業について実施します。

2 名寄市の概況

(1) 位置・地勢

本市は、北緯44度、東経142度、北・北海道の長流天塩川が形成する名寄盆地のほぼ中央に位置し、東は雄武町と下川町、西は幌加内町、南は士別市、北は美深町と接しています。

その市域は、東西に約29km、南北に約34.5kmの四角形に近い形となっており、534.86km²の行政面積を有しています。

道路は南北に国道40号、東側に国道239号が通り、また鉄道は南北に宗谷本線が走っており、古くから交通の要衝として幅広い生活圏域を形成した本市は、道北圏の中核都市として発展してきました。

気候は、日本海気象の影響を受ける内陸部に属していることから寒暖の差が激しく、夏冬の温度差は60℃にも及び、夏季は昼夜の温度差が大きく、冬季は寒気が厳しく降雪量も多い気象条件を有しています。

(2) 沿革

風連地域は、明治32年、旧村名「多寄村」の名称のもとに剣淵村外3カ村戸長役場の管轄に入ったことにはじまり、風連村を経て昭和28年の町制施行で風連町になりました。

名寄地域は、明治33年、山形県東田川郡東栄村(藤島町を経て鶴岡市)の有志により曙地区に開拓の鋤が下ろされて以来、上名寄村、名寄町を経て、昭和29年に旧智恵文村と合併後、昭和31年に北海道内21番目の市として市制を施行しています。

こうした中で、古くから地理的・人的つながりの深かった両市町は、人的・財政的基盤を強化する必要の高まりを背景に、平成16年3月に「法定合併協議会」を設置し、様々な事務事業の擦り合わせとともに住民説明会を重ね、平成18年3月27日に新設合併し新「名寄市」が誕生しました。

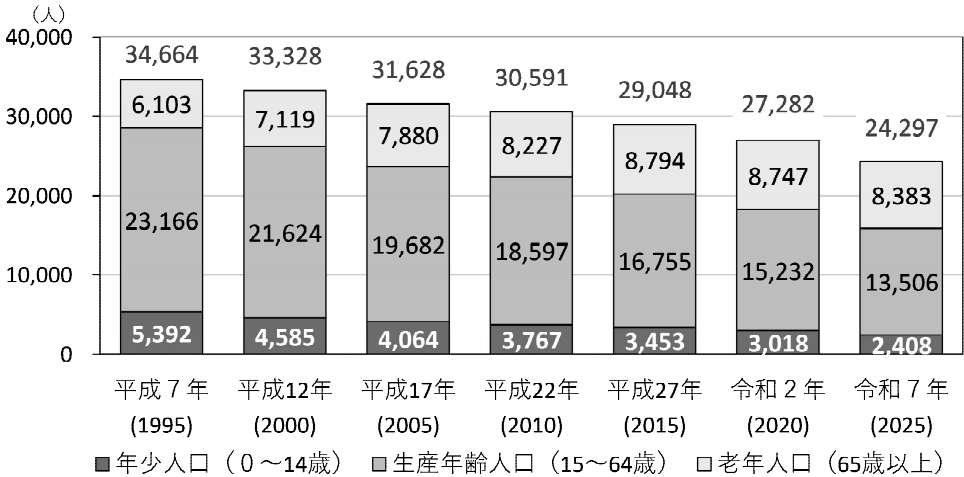
社会的・経済的にみると下川町、美深町、音威子府村、中川町とのつながりが深く、これらの町村と一部事務組合(消防救急:下川町・美深町・音威子府村・中川町、廃棄物処理:下川町・美深町・音威子府村)、介護認定審査会などを設置しているほか、周辺の12市町村とともに、北・北海道中央圏域定住自立圏を形成して広域行政を進めており、本市はこの圏域で中心的な役割を果たしています。

(3) 総人口と人口動態の状況

旧風連町を含む本市の総人口は減少傾向で推移しており、令和7年には24,297人となっています。年齢3区分別人口をみると、年少人口(0～14歳)及び生産年齢人口(15～64歳)は減少傾向で推移しているほか、これまで増加傾向で推移していた老年人口(65歳以上)も令和2年には減少に転じています。

総人口の変化を自然増減(出生と死亡による人口の増減)と社会増減(転入と転出による人口の増減)でみると、社会減が人口減少の大きな要因となっている状況ですが、近年は自然減が拡大しています。

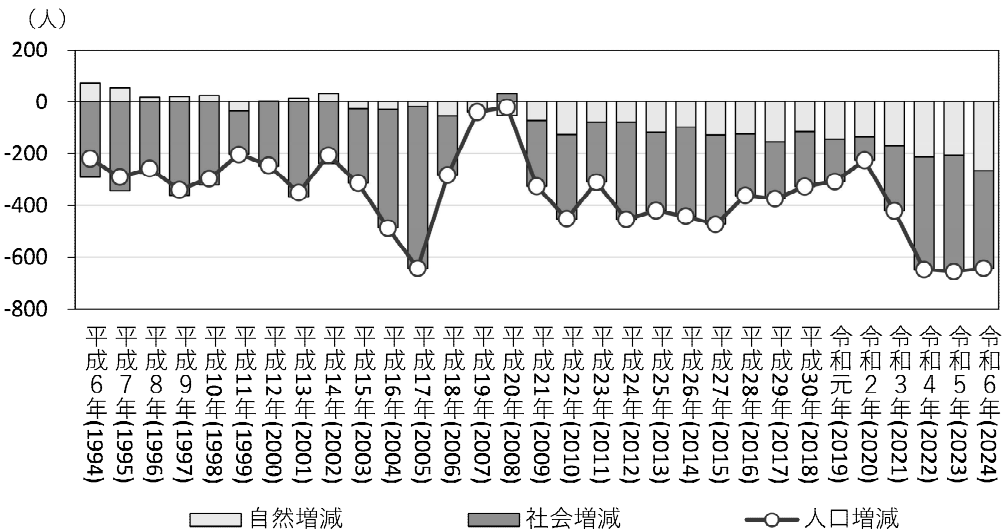
■総人口及び年齢3区分別人口の推移



※総人口は年齢不詳を含む。

出典: 令和2年まで総務省「国勢調査」、令和7年は住民基本台帳(令和7年9月末現在)

■自然増減と社会増減の推移



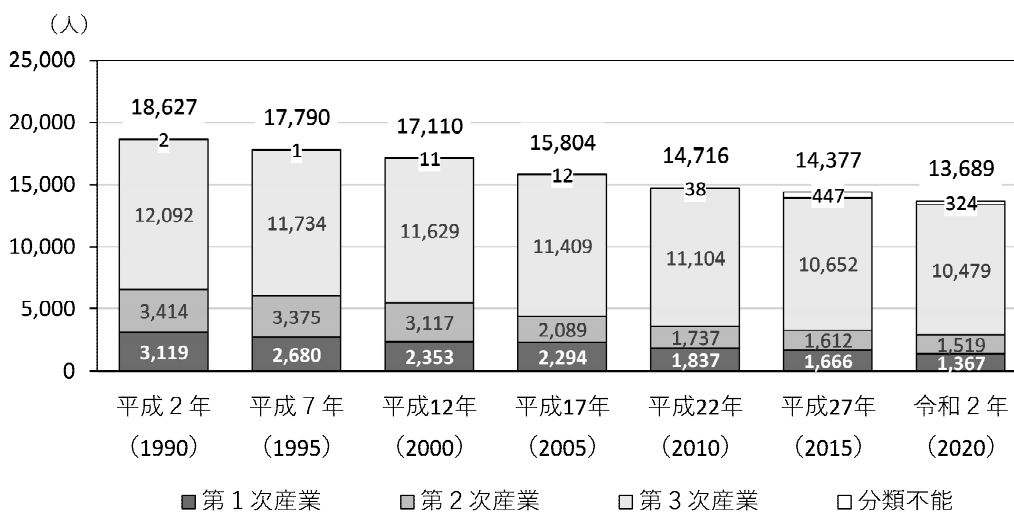
出典: 令和5年まで/内閣府「地域経済分析システムRESAS」、令和6年/総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

(4) 産業の状況

旧風連町を含む就業者総数の推移を産業大分類別で見ると、第1次産業と第2次産業の就業者数は大きく減少しており、平成2年から令和2年にかけて第1次産業は1,752人(56.2%)、第2次産業は1,895人(55.5%)の減少となっています。

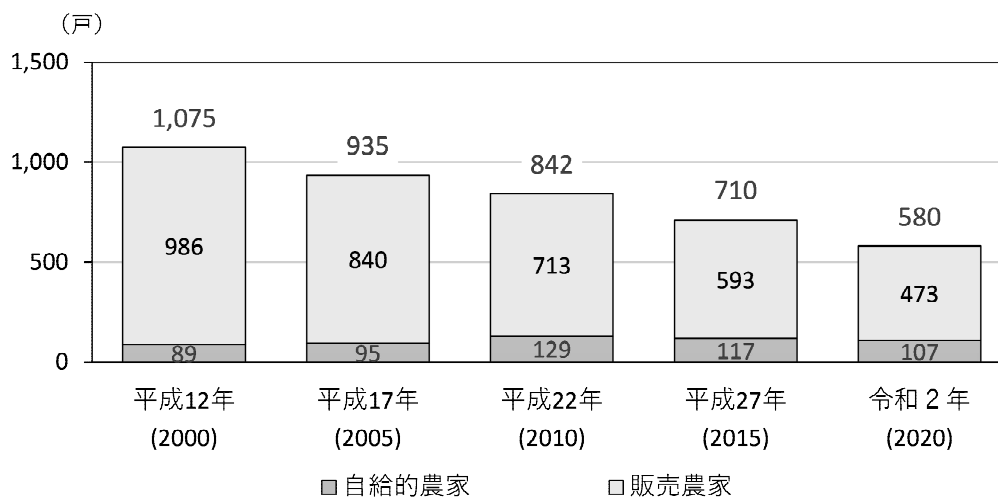
第1次産業のうち農家戸数の推移を見ると、総農家数は平成12年からの20年間で半数近くまで減少しており、令和2年は580戸の状況です。

■産業3部門別就業者数の推移



出典:総務省「国勢調査」

■農家戸数の推移



出典:農林水産省「農林業センサス」

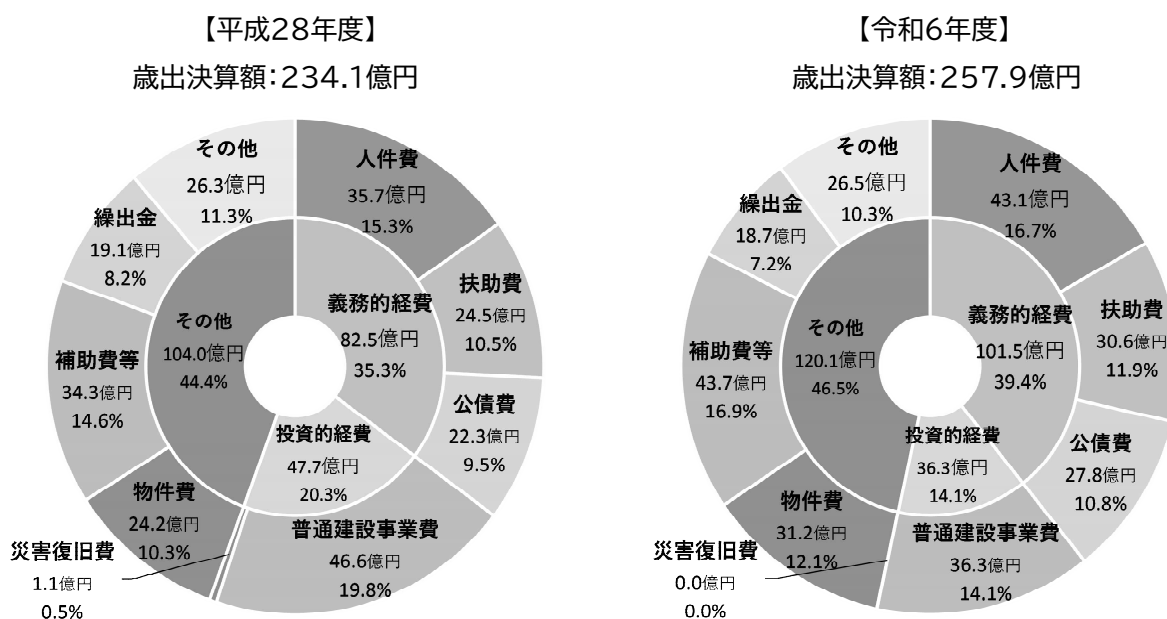
(5) 財政の状況

本市普通会計の歳出を平成28年度と令和6年度で比較すると、決算額は234.1億円から257.9億円に増加しています。

歳出を性質別でみると、義務的経費(人件費、扶助費及び公債費の合計)は82.5億円から101.5億円へと19.0億円の増加となっています。

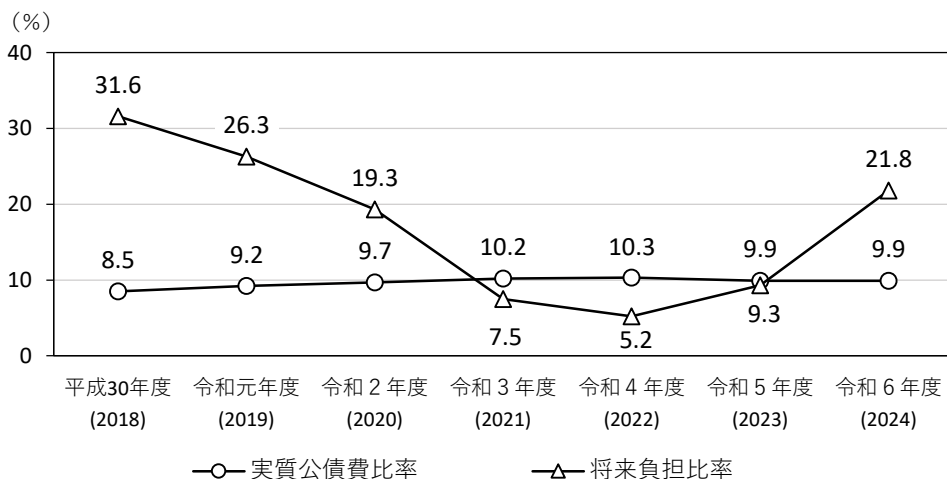
実質公債費比率及び将来負担比率の推移をみると、実質公債費比率は10%前後で推移していますが、将来負担比率は令和4年度の5.2%から増加に転じており、令和6年度は21.8%となっています。

■実質公債費比率及び将来負担比率の推移



※端数処理のため内訳と合計が一致しない場合があります。
出典:名寄市財政課

■実質公債費比率及び将来負担比率の推移



出典:名寄市財政課

3 時代の潮流

(1) 人口減少と少子高齢化の進行

我が国の総人口は、平成20年の約1億2,808万人をピークに人口減少社会に入っており、令和7年1月1日時点の住民基本台帳に基づく人口は約1億2,433万人に減少しています。また、高齢者人口(老年人口)は、令和7年1月1日時点で約3,592万人、総人口に占める割合は28.9%となっています。

超高齢社会は、高齢者、特に後期高齢者の増加によって、年金や医療費等の社会保障費の増加等、社会の様々な面での影響が懸念されており、令和24年には国民の5人に1人が後期高齢者になると予測されています。

一方、出生数は平成27年まで100万人を維持してきましたが、以降は100万人割れの年が続いており、令和6年の出生数は約69万人となっています。

人口減少や少子高齢化は労働力や地域活力の低下を招くとともに、内需を縮小させる要因となるため、将来的な経済の低迷や国力の衰退につながることを懸念されます。

(2) 経済・雇用情勢の変化

経済のグローバル化が進み、従前から製造業の海外移転等が進んでいましたが、近年は、コロナ禍の影響により製造業の国内回帰等もみられ、国内生産による品質の向上と供給の安定化に努めていました。そのような中、令和4年に入りロシア・ウクライナ間での戦争による世界的なサプライチェーンの寸断や原材料費の高騰等により、製造業を取り巻く厳しい状況は依然として続いています。

雇用情勢は、コロナ禍以前と比べて求人数の回復に遅れがみられる産業もあるものの、経済社会活動が徐々に活発化する中で持ち直しの動きがみられ、女性、高齢者及び障がい者等の労働参加が着実に進展しています。

しかしながら、少子高齢化等の影響を受け、長期的に続く企業の人手不足の問題も再び顕在化してきています。

このような状況下で、地域経済を持続的に発展させていくためには、時代に合った良好な雇用環境を整えていくことが重要であり、これまで以上に中小企業支援や求職者に対する就職支援、雇用のミスマッチ解消等に向けた取組強化が求められるとともに、外国人材の受入れと定着促進が必要と考えられます。

(3) 国を挙げたデジタル化の取組

国において、デジタルの力を活用した地方の社会課題解決やハード・ソフトのデジタル基盤整備、デジタル人材の育成・確保等の取組をさらに加速させるため、「デジタル田園都市国家構想」を提示し、その具体的な取組を進めるため、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定しました。

本市では、DX推進を通して持続可能なまちの実現を目指す上で、「デジタルで未来を拓き市民とともに人・暮らし・元気を育む」を基本理念として策定した「名寄市DX推進計画」に基づき、庁内のDXとして「わかりやすい行政」、地域のDXとして「ずっと住み続けたい名寄市」を目指して、あらゆる分野でのデジタル技術等の効果的な活用により、市民の利便性向上や業務効率化等につながる取組を進めています。

(4) 安全・安心な暮らしの確保

平成23年に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらし、人々の意識に大きな衝撃を与えました。

また、近年の大型台風や線状降水帯、積乱雲の突然の発達による局地的大雨や竜巻等は、各地に大きな被害をもたらしていることから、こうした天災に対する人々の防災意識は急速に高まっています。

生活安全の面においては、高齢の方を狙った特殊詐欺、SNSを介して若者が被害に遭う事件など、悪質な犯罪が後を絶ちません。また、通学途中の子どもが巻き込まれる悲惨な事故も全国各地で起きています。

本市としても、身近な安全を脅かす問題への対策を進め、誰もが安心して日々を過ごすことができる環境を整えることが重要です。

(5) 環境問題に関する意識

二酸化炭素等の温室効果ガスの増加による地球温暖化の影響は年々顕在化し、洪水や干ばつ、超大型台風の発生等の異常気象が世界各地でみられ、被害も至るところで発生するようになっていきます。地球環境への負荷低減が世界共通の課題として掲げられており、全世界で化石燃料依存からの脱却・転換が進みつつあります。

温室効果ガスを排出しない「再生可能エネルギー」については、太陽光・風力・地熱・水力・バイオマス等を利用した取組が広がっています。また、地球温暖化対策の推進に関する法律で、都道府県及び市町村は、温室効果ガスの排出の抑制等に努めるものとされており、地方自治体は2050

I 総論

年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロとするカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けた取組を進めることが求められます。

個人レベルにおいても、節電・節水等の省エネにつながる活動の実践や省エネ性能の高い家電製品、電動車(EV、PHEV、HEV等)の導入、ごみの減量やリサイクルへの取組等により、環境に優しいライフスタイルを実践することが求められます。

(6) 価値観やライフスタイルの多様化

現代社会において、個人的な豊かさの追求から持続可能な地球環境の保全といった、個人から社会全体にわたる多様な価値観が混在しています。また、経済情勢や雇用者の都合を理由とした非正規雇用による就労形態の増加や、晩婚化・未婚化の進展による単独世帯の増加、インターネットやスマートフォン等の普及等により、個人のライフスタイルは年々変容しています。

その一方で、便利さや経済的な豊かさを追求するよりも、癒やし、健康、余暇等、心身の健康づくりを重視する傾向も強くなっています。

そのため、生涯にわたる教育・文化活動やスポーツ・レクリエーション活動に一層取り組み、個性や能力が最大限発揮される地域社会の構築を推進するとともに、老若男女、障がいのある人もない人も、全ての人が活躍できる社会の実現、異文化理解と多文化共生の推進等、多様な価値観や個性を尊重することにより、互いの存在を認め合い、支え合える社会を構築することが求められています。

(7) 幸せを実感できるまちづくり

身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味するウェルビーイングが近年注目されており、国際的に個人と社会全体のウェルビーイング向上を目指した取組が進められています。

まちづくりの究極の目的は、そこに暮らす市民一人ひとりが「幸せ」を感じられることにあり、道路や建物といったハード面の整備や、経済的な指標の向上は重要ですが、それらは手段に過ぎません。

市民生活に密着している基礎自治体においても、幸せの概念ともいえるウェルビーイングの視点を持って、市民が幸せを実感できるまちを構築していくことが求められます。

4 市民意識とまちづくりの課題

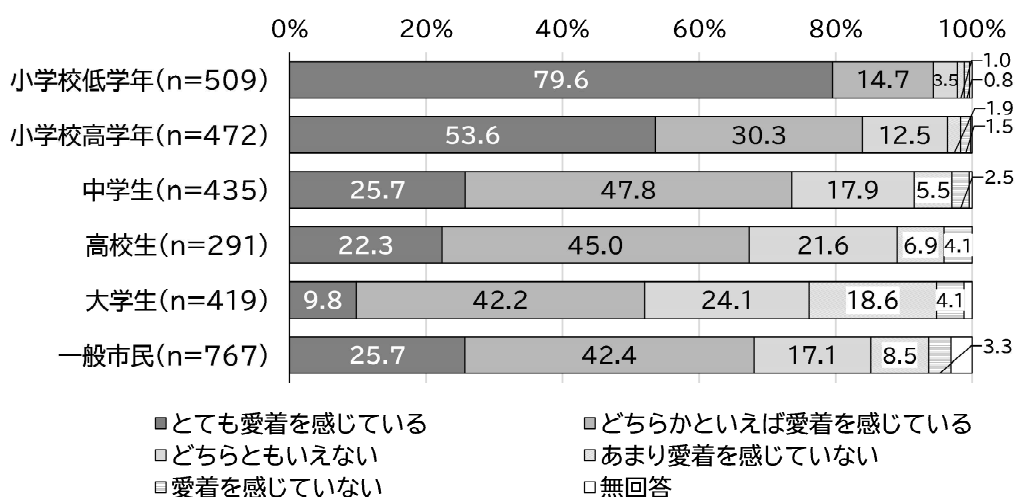
(1) 市民アンケート調査結果

①名寄市への愛着度

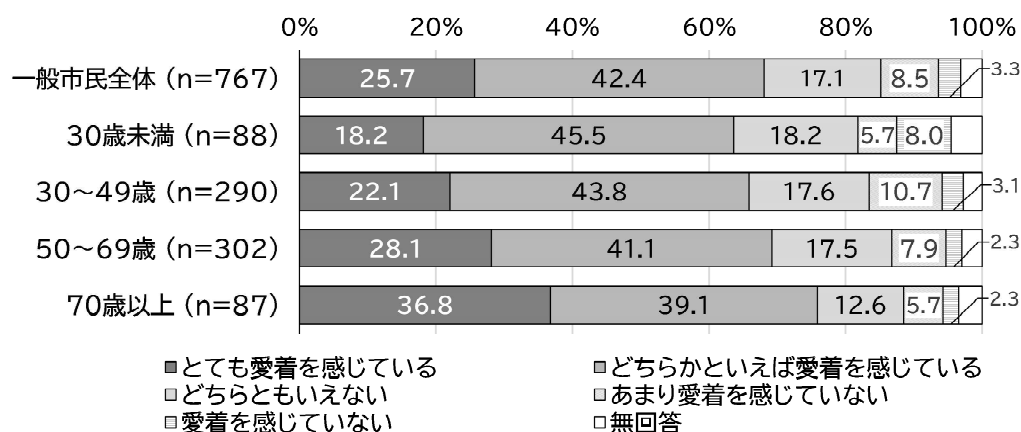
名寄市への愛着度を調査対象者別でみると、「とても愛着を感じている」「どちらかといえば愛着を感じている」の合計は小学校低学年が94.3%で最も高く、大学生はその割合が52.0%で最も低くなっており、市外からの転入者が多いことがその要因になっていると考えられます。

一般市民を年齢階級別でみると、30歳未満で名寄市に愛着のある人の割合は63.7%でほかの年齢階級と比べて低い状況です。

■名寄市への愛着度(調査対象者別)



■名寄市への愛着度(一般市民の年齢階級別)

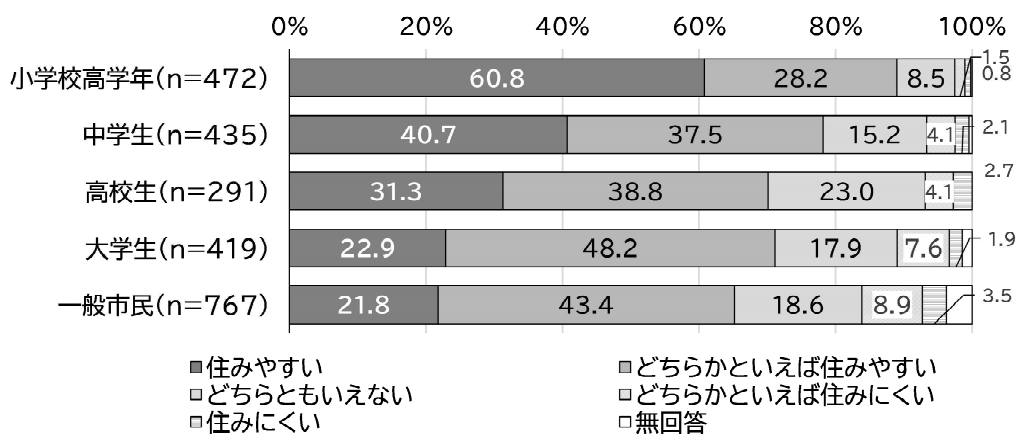


②名寄市の住みやすさ

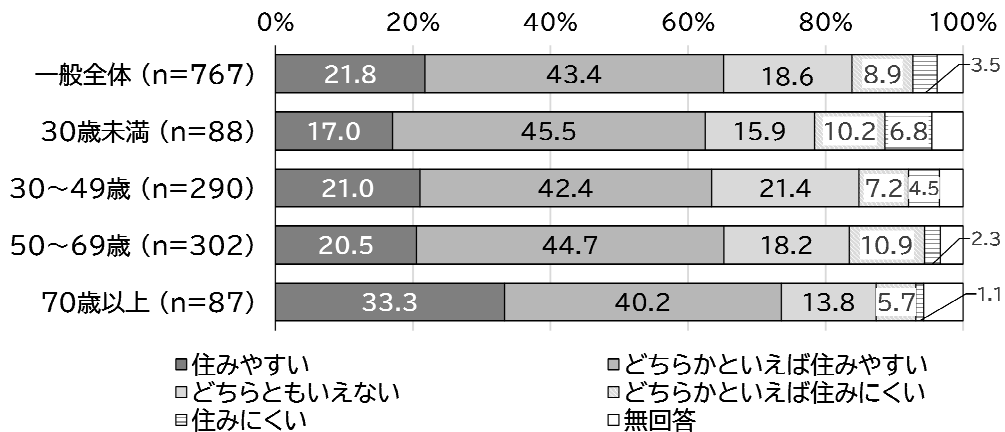
名寄市の住みやすさを調査対象者別でみると、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計は、最も高い小学校高学年が89.0%で年齢が高くなるにつれてその割合は低くなっています。

住みやすいと感じている人の割合が最も多い一般市民を年齢階級別でみると、30歳未満は「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」の合計が17.0%で、ほかの年齢階級と比べて高い状況です。

■名寄市の住みやすさ(調査対象者別)



■名寄市の住みやすさ(一般市民の年齢階級別)

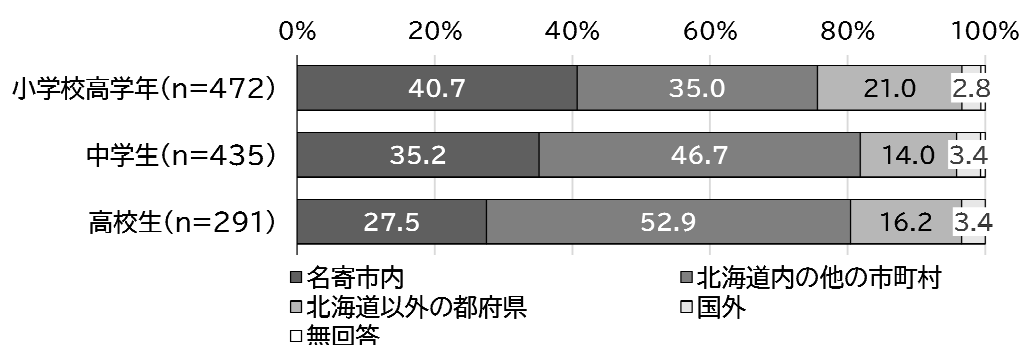


③名寄市への定住意向

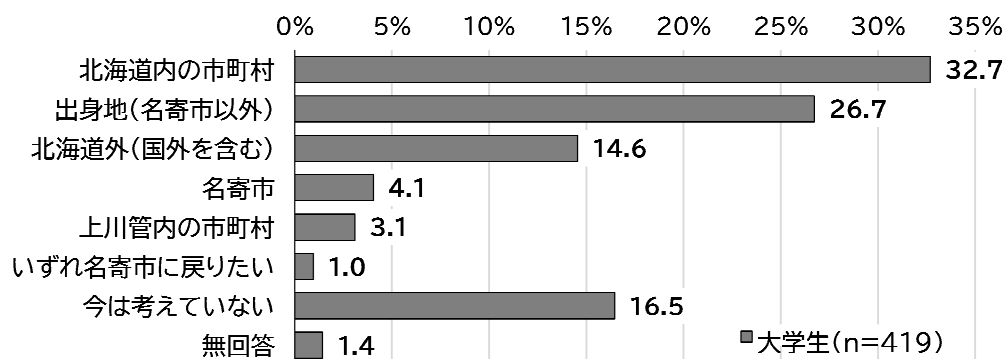
30歳頃に暮らしたい場所を小学校高学年、中学生及び高校生にたずねたところ、小学校高学年は「名寄市内」が40.7%で最も高くなっていますが、高校生は「北海道内の他の市町村」が52.9%と半数を超えています。

大学生が卒業後に住みたい場所は「北海道内の市町村」(32.7%)、「出身地(名寄市以外)」(26.7%)が上位回答となっており、「名寄市」は4.1%と低い状況にあるほか、一般市民で名寄市に定住意向した人の割合は30歳未満が30.7%にとどまっています。

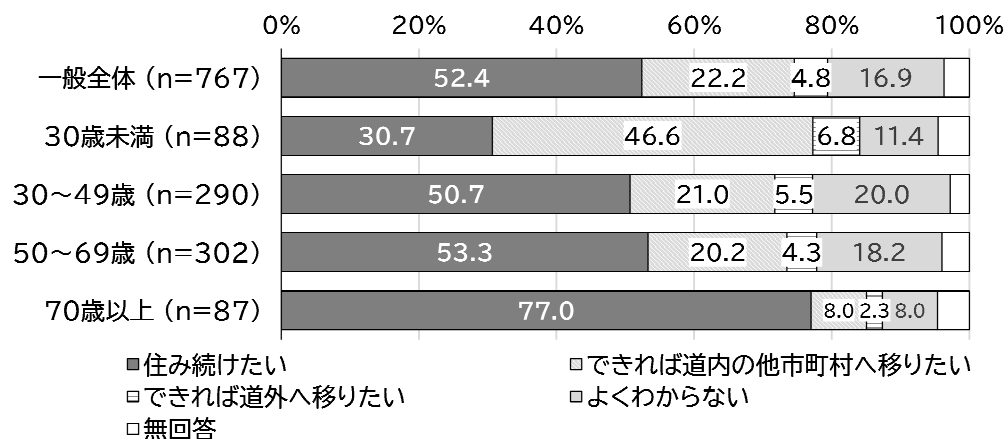
■30歳頃に暮らしたい場所(小学校高学年～高校生)



■大学卒業後に住みたい場所(大学生)



■名寄市への定住意向(一般市民)

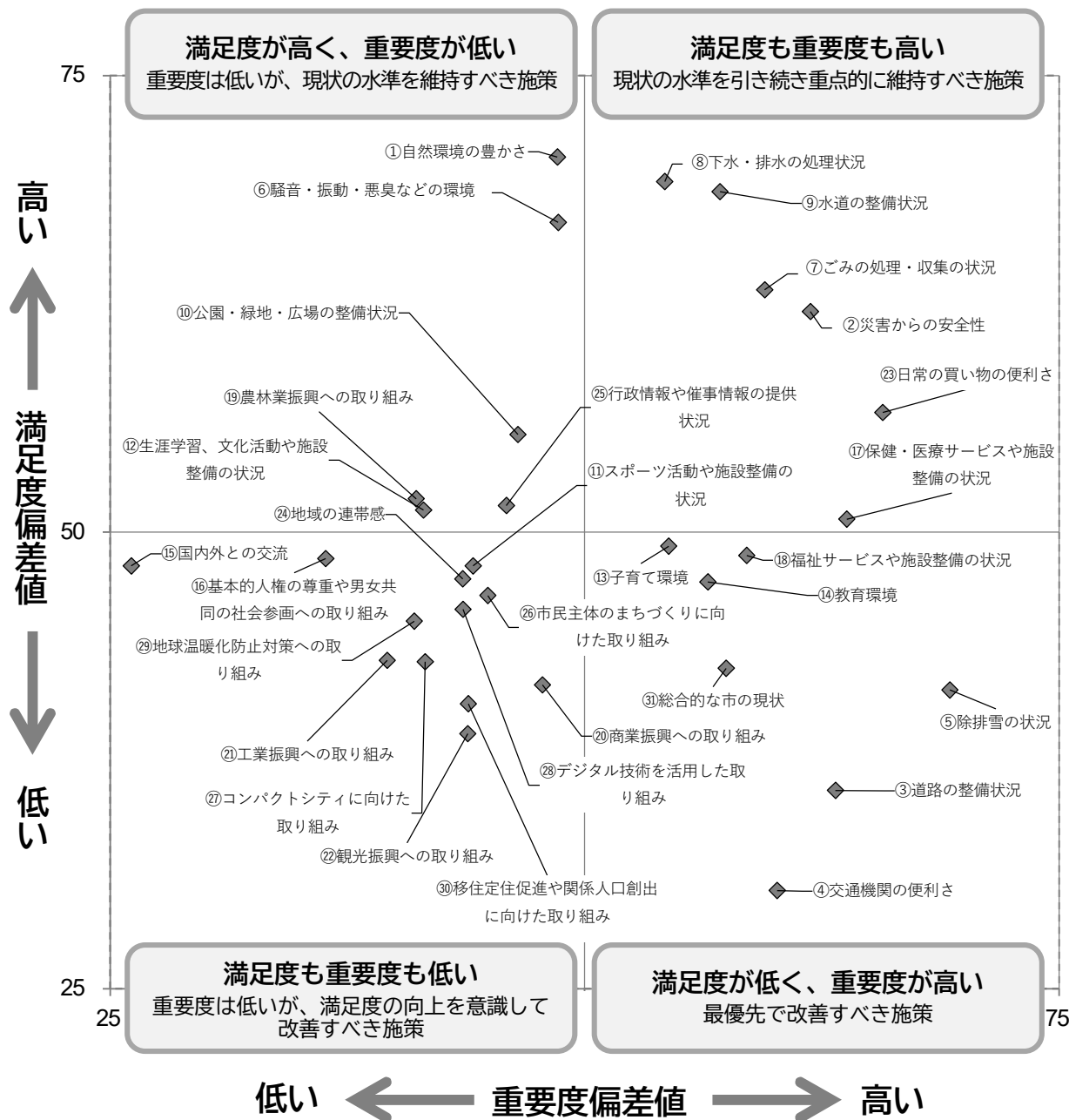


④ 施策項目別の満足度と重要度

市が進める施策項目に関して、アンケート調査における「現状の満足度」と「今後の重要度」の集計結果に基づく分析を行いました。

下図の右下「満足度が低く、重要度が高い」の領域に含まれる施策は、ほかの施策と比べて優先した対応が望まれ、右下に位置付けられるほど改善の優先度が高い項目と考えられ、施策項目の中では「④交通機関の便利さ」「③道路の整備状況」「⑤除排雪の状況」は改善の優先度が非常に高いと考えられます。

■ 施策項目別の満足度と重要度の分布

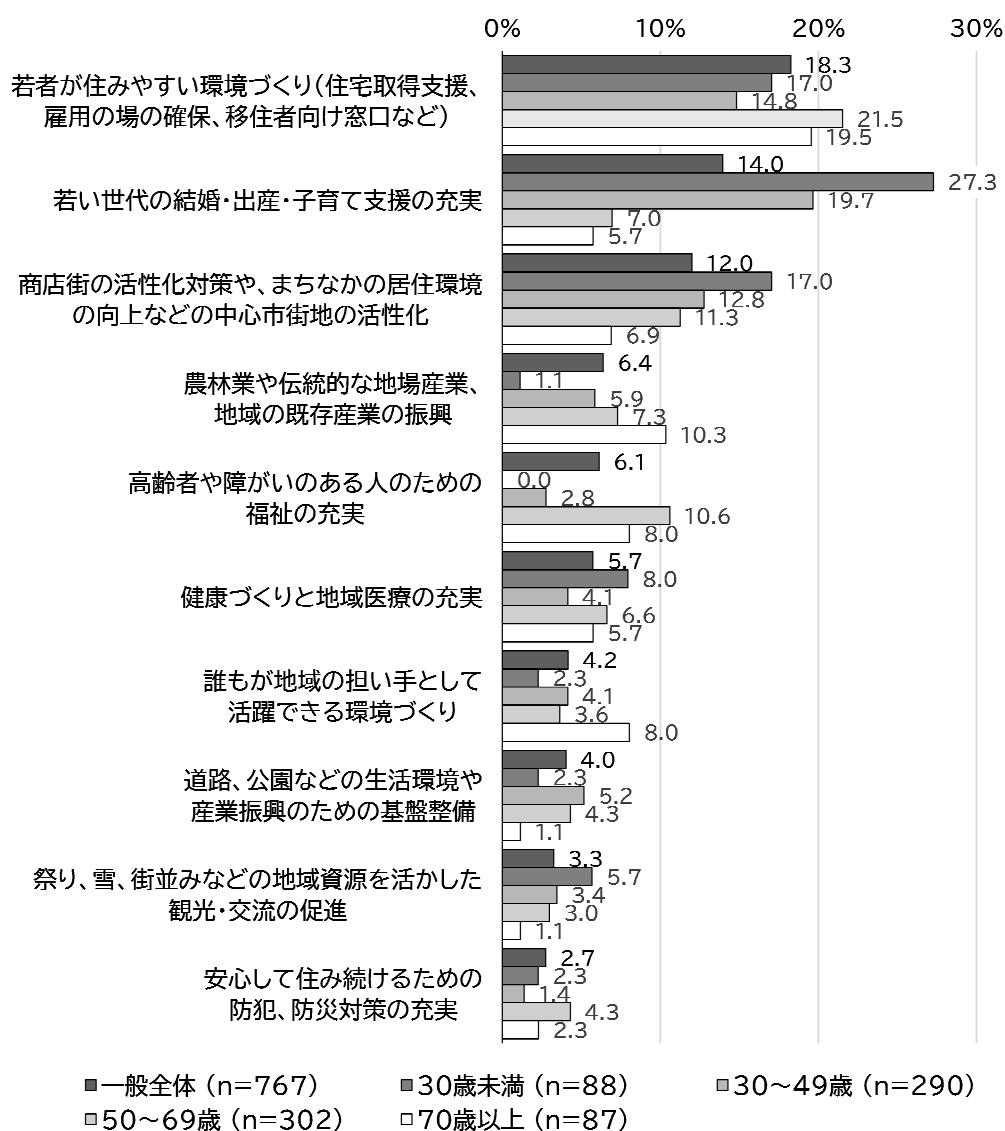


⑤今後力を注ぐべき取組

まちづくりを進めるために今後力を注ぐべき取組を全体で見ると、「若者が住みやすい環境づくり(住宅取得支援、雇用の場の確保、移住者向け窓口など)」が18.3%で最も多く、次いで「若い世代の結婚・出産・子育て支援の充実」(14.0%)、「商店街の活性化対策や、まちなかの居住環境の向上などの中心市街地の活性化」(12.0%)が続いています。

年齢階級別でも、「若者が住みやすい環境づくり(住宅取得支援、雇用の場の確保、移住者向け窓口など)」の割合は高くなっていますが、30歳未満は「若い世代の結婚・出産・子育て支援の充実」が27.3%で突出しています。

■今後力を注ぐべき取組(上位10項目の抜粋／一般市民)



(2) Well-Beingアンケート調査結果

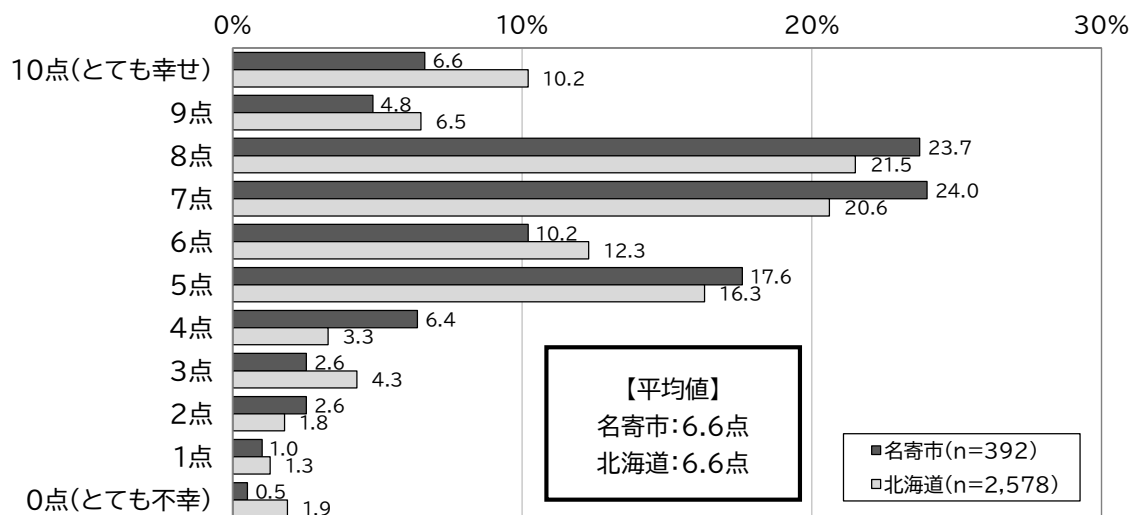
①幸福度と生活満足度

本市における現在の幸福度は、「8点」(23.7%)、「7点」(24.0%)、「5点」(17.6%)の割合が高く、平均値は6.6点となっています。

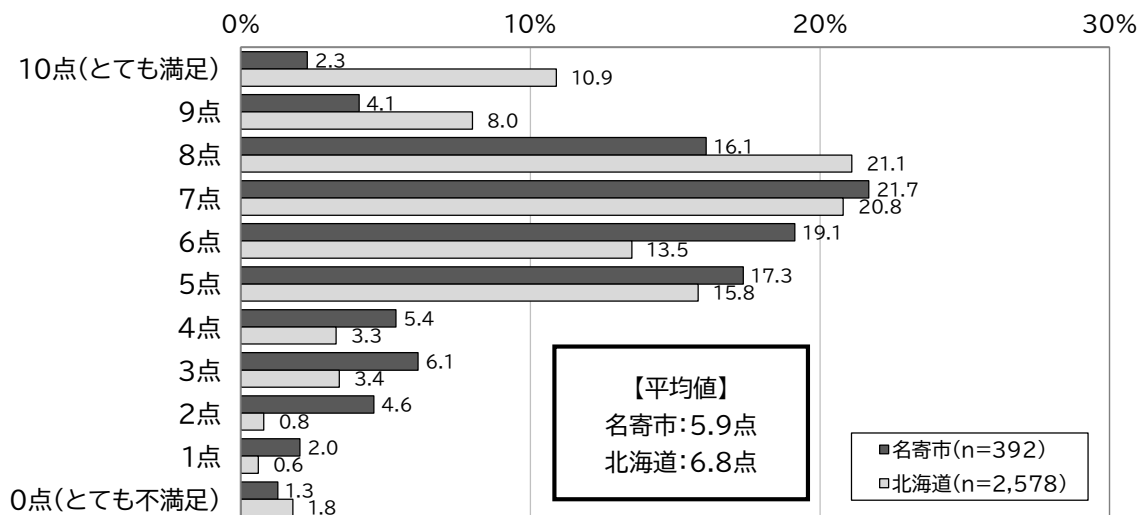
北海道の集計結果と比較すると、幸福度の平均値には差異がありませんが、点数ごとの回答割合は、本市は「10点」が3.6ポイント低く、「7点」が3.4ポイント高くなっています。

また、本市における生活満足度は、「7点」(21.7%)、「6点」(19.1%)、「5点」(17.3%)、「8点」(16.1%)の順で割合が高く、平均値は5.9点となっており、北海道の集計結果と比較すると、本市の平均値は北海道の6.8点を0.9点下回っているほか、「10点(とても満足)」が8.6ポイント下回っている状況です。

■現在の幸福度の分布



■生活満足度の分布



出典:「2025年版(令和7年度版)Well-Being個別調査」(デジタル庁)

②因子別の状況

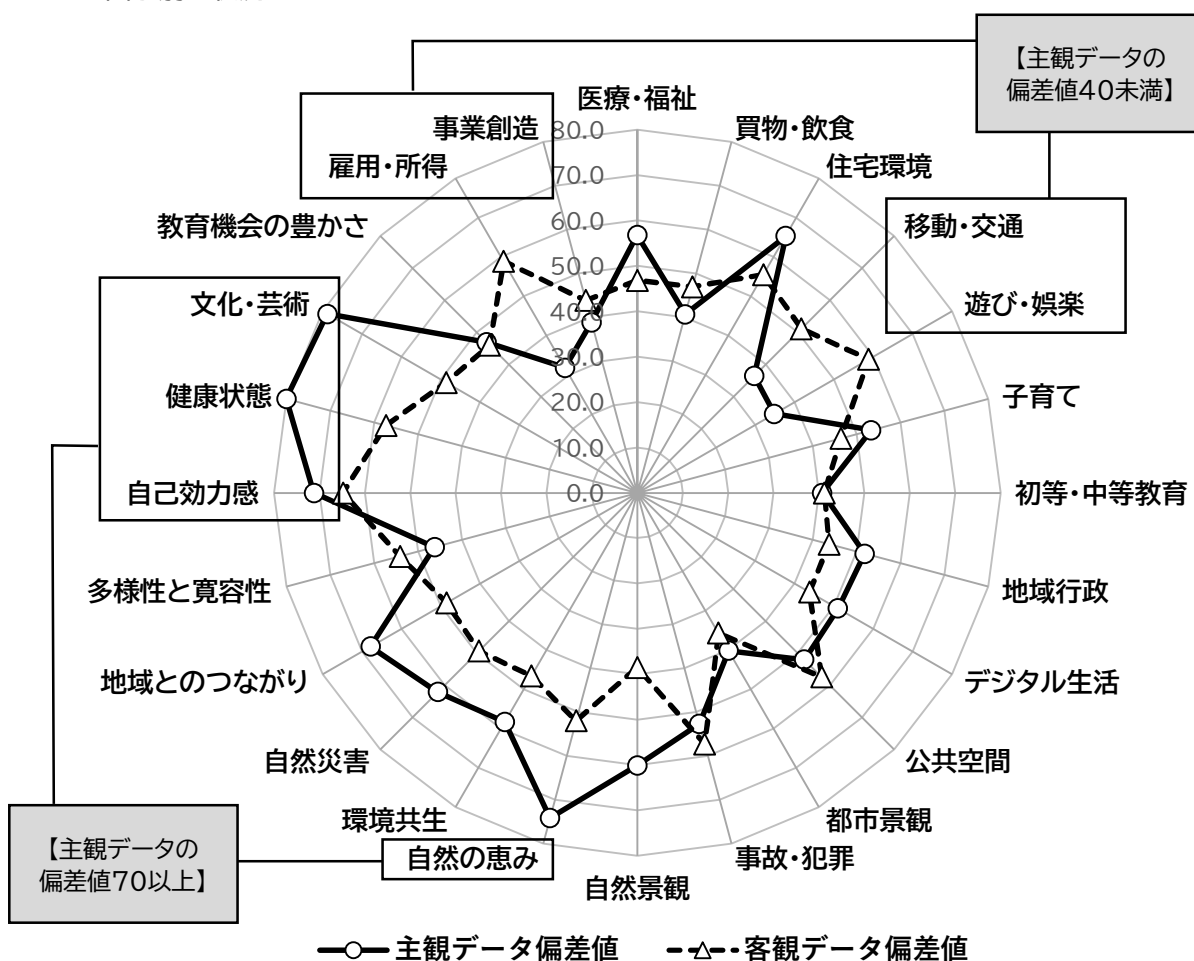
Well-Being指標の主観データにおいて、3つの因子群(「生活環境」「地域の人間関係」「自分らしい生き方)」を構成する24因子に関して、全国の集計データから偏差値として算出した結果を客観データ(各種オープンデータを基にした客観的なデータ)と比較したグラフは下図のとおりです。

主観データの偏差値が70以上の因子は、「自然の恵み」「自己効力感」「健康状態」「文化・芸術」の4つ、偏差値が60を超えている因子は、「住宅環境」「自然景観」「自然災害」「地域とのつながり」の4つで、これらは本市の強みと捉えられます。

主観データの偏差値が40を下回っている因子は、「移動・交通」「遊び・娯楽」「雇用・所得」「事業創造」の4つで、これらは本市の弱みと想定されます。

一方、客観データの偏差値をみると、60以上の因子は「自己効力感」、40未満の因子は「都市景観」「自然景観」となっています。

■因子別の状況



出典:「2025年版(令和7年度版)Well-Being個別調査」(デジタル庁)

(3) 市民ワークショップ結果

名寄市総合計画(第3次)の策定にあたり、計画策定プロセスへの住民参画の一環として、名寄市の将来像について住民とともに考えるための市民ワークショップを開催しました。

市民ワークショップでは、将来像の検討に向けて名寄市が持つ資源や課題、今後のまちづくりで育てたいことについて意見出しと内容の整理を行いました。

市民ワークショップで出た主要な意見は下記のとおりです。

■施策分野別の主な意見

施策分野	名寄市で自慢したいもの 将来残したいもの	まちづくりで 今後心配なこと	まちづくりで これから育てたいこと
市民参画・ 健全財政	○地域のコミュニティ ○人の良さ ○いろいろなイベント ○電子通貨Yorooca	○若者の市外流出 ○市の財政状況 ○まちづくりが進むかどうか	○電子通貨Yorooca ○デジタル活用 ○コミュニティの拠点づくり
保健・医療・ 福祉	○名寄市立総合病院 ○病院の診察科目が多い ○24時間対応の小児科	○医療体制の維持 ○免許返納後の足 ○共働き世帯の増加 ○介護人材の確保	○高齢者と子供のつながり ○子育てしやすい環境
生活環境・ 都市基盤	○自然災害が少ない ○自衛隊 ○街がコンパクト ○生活に不自由がない ○除雪	○道路整備(除雪含む) ○こどもの遊び場、居場所 ○クマ対策 ○除排雪体制の維持	○若者が楽しめるスポット ○遊ぶ場所がほしい ○高速道路 ○物流、防災拠点づくり
産業振興	○雪、雪質No.1 ○農産物(もち米、アスパラ、 トウモロコシなど) ○星、星空 ○豊かな自然 ○オーロラ ○ひまわり	○農業の後継者、担い手不足 ○商店街の空き ○働く場所があるかどうか ○新しくお店を始める人が いない	○企業誘致 ○観光振興 ○農業の担い手確保 ○若者の選択肢 ○特産品のブランド強化 ○まちの特色づくり ○つり場、キャンプ場
教育・文化・ スポーツ	○名寄市立大学 ○名寄ピヤシリスキー場 ○なよろ市立天文台 ○カーリング場 ○エンレイホール ○キマロキ ○サンピラーパーク、北国博 物館	○こども、若者がやりたいス ポーツができない ○学生が名寄に残らない ○地元に残ってもらう仕事 ○名寄市立大学の存続、学 生の減少 ○名寄高校の定員割れ	○学校 ○部活動 ○Nスポ、スポーツ×まち ○天文台 ○カーリング、スキー場 ○小学校から大学そして就 職できる町づくり

(4) まちづくりの課題

① 少子高齢化の進展による担い手の不足

日本全体の傾向と同様、人口減少と少子高齢化による生産年齢人口の減少は本市においても深刻な担い手不足をもたらしています。

子育て支援、高齢者介護、障がい者支援など福祉サービスでは人材の確保が難しい状況にあり、現状のサービス規模を維持することが今後は困難になってくることも考えられます。

福祉サービス以外においても、農業や観光、商工業など様々な分野で担い手不足が深刻化すると考えられるため、これらに適切に対応していくことが求められます。

あわせて、高齢化の進展により地域活動の低下が見込まれるほか、近隣との付き合いや地域への関心も薄れてきている背景もみられることから、本市に暮らす住民一人ひとりが人と人とのつながりを大切にし、近隣との付き合いやまちづくりの大切さを再認識していくことが必要です。

② 人口減少に伴う商工業の衰退

人口減少は企業活動に大きく影響を与えており、地域での需要が小さくなることによって一般企業や商業施設、飲食店、サービス業などの撤退リスクが高まることが予想されます。

まちづくりの面では、中心市街地の空き店舗や空き地が増え、にぎわいの低下をもたらすだけでなく、防犯面の不安や地域のつながりの弱まりにもつながりやすく、公共交通や生活サービスの維持も難しくなると考えられます。

商工業の衰退は「買い物が不便」「働く場が少ない」「街の魅力が下がる」という形で、日々の暮らしに影響するため、今後も継続的な対策を進めていく必要があります。

③ 若者定着に向けた取組の推進

本市は名寄市立大学への進学や自衛隊名寄駐屯地への配属により、18歳～20代の若者が一定数転入するという同等規模の他の自治体にはない強みがありますが、大学卒業時や自衛隊の転属・退官時に、その多くが市外へ流出してしまっています。

市民アンケート調査においても、大学生や30歳未満の市民の定住意向は高いとは言えないことや、今後力を入れるべき取組として「若者が住みやすい環境づくり」「若い世代の結婚・出産・子育て支援の充実」が上位回答になっていることから、若者定着に向けた取組を推進していくことが求められます。

④地域の特性を活かした産業の振興

本市の産業構造は、全国有数の作付面積を誇るもち米やアスパラガスを中心とした農業を基幹とし、道北地域の交通の要衝としての利点を活かした物流・商業が展開されてきました。

しかし、近年の急速な人口減少と少子高齢化に伴い、担い手不足や後継者問題が深刻化しており、農地の集約化やスマート農業の導入による生産性の向上、さらには経営基盤の強化が課題となっています。

また、デジタル技術の進展に伴い、既存産業のデジタル化を推進するとともに、多様な働き方を支える環境整備を通じて、若年層や外部人材の定着・還流を促していく必要があります。

⑤公共施設やインフラの老朽化対策

日本全体の傾向と同様、老朽化が進んでいる公共施設があることや、水道管など多くのインフラ施設が更新時期を迎えることから、今後も計画的に公共施設やインフラの老朽化対策を進めていく必要があります。

本市には、道北三次医療圏の地方センター病院である名寄市立総合病院や公立の四年制大学として日本最北に位置する名寄市立大学をはじめ、なよろ市立天文台きたすばるや雪質No.1の名寄ピヤシリスキー場など、市内外に誇ることができる施設が多くあり、これらを将来も維持活用していくため、計画的に維持・修繕を進めていく必要があります。

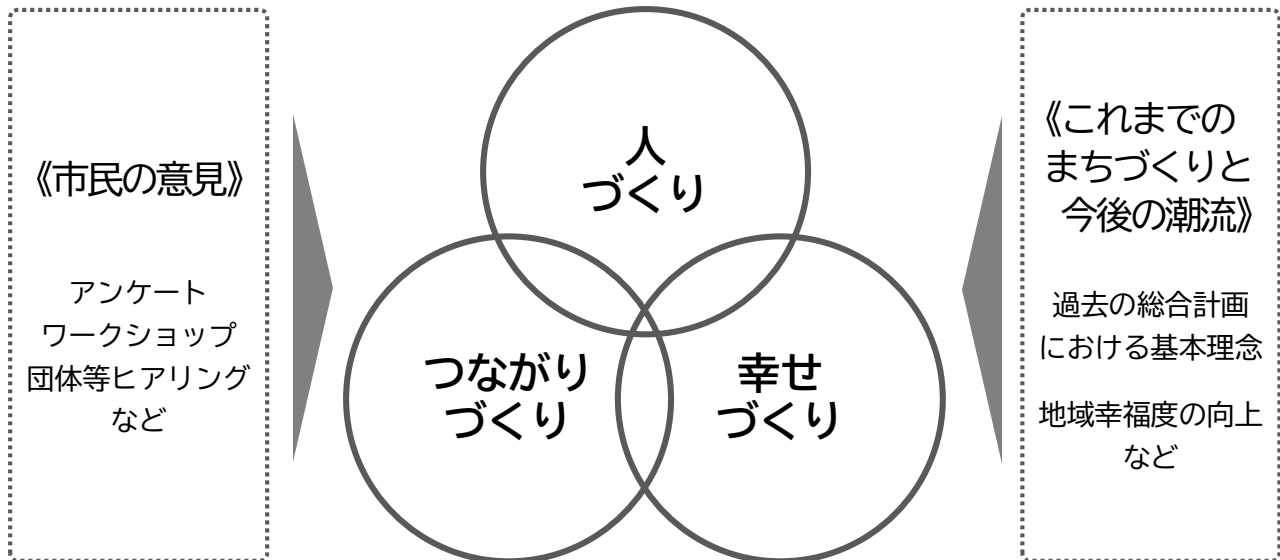
⑥今後の財政状況を見据えた効果的・効率的な行政経営

一連の地方分権改革が進展する中、これからの人口減少社会を考えると地方自治体を取り巻く状況はさらに厳しくなることが予想され、これまで以上に効果的・効率的な行政経営が求められることとなります。

今後は、人口減少下においても都市機能や生活サービスを維持できるよう、公共施設の老朽化対策を計画的に進めるとともに、市民ニーズを踏まえた選択と集中の考え方を通じた効率的で健全な行財政運営により、将来世代への負担転嫁を抑制する「財政の健全化」を推進していく必要があります。

II 基本構想

1 基本理念（案）



(1) 人づくり

「まちづくりは人づくり」という言葉があるとおり、活力ある豊かなまちを築いていくためには人の力が大きな原動力となります。

こどもから大人まで生涯を通じて学ぶことができる環境をつくり、故郷への誇りと愛着持ち、まちの未来に主体的に関わる人材を育むことを大切にしてまちづくりを推進します。

(2) つながりづくり

複雑化する地域の課題を解決し、未来へ向けて新たな活力を生み出していくためには、多様な主体が手を取り合い、力を合わせる事が不可欠です。

新たな価値の創造を目指し、人と人、人と組織、デジタルとアナログなど、様々なつながりを大切にしてまちづくりを推進します。

(3) 幸せづくり

これからのまちづくりは、物質的な豊かさと精神的な豊かさが調和した、市民の心からの笑顔が増えるまちを目指すことが必要となります。

市民が日々感じる心の充足感や、生きがい、安心感といった「市民幸福度の向上」を大切にしてまちづくりを推進します。

2 将来像（案）

基本理念を踏まえ、本計画において名寄市が目指す将来像を下記のとおり設定します。

【将来像（案）】

「ここでいい」じゃなく「ここがいい」
豊かな自然と人のつながりで未来を拓くまち名寄

《将来像に込めた想い》

この将来像には、本市で暮らすことを「消極的な選択」ではなく、「誇りと納得のある選択」にしていきたいという想いを込めています。

進学や就職、子育て、仕事の転機など、人生の節目で「名寄を選びたい」「名寄に戻りたい」と思ってもらえるよう、日々の暮らしの中で“このまちに住んでよかった”と実感できるまちを目指します。

名寄の強みである豊かな自然は、ただ眺めるものではなく、暮らしや産業、学びや健康に生かせる資源です。

四季の魅力や農産物と食、雪や寒さを楽しみに変える「利雪親雪」のまちづくりなど、培ってきた知恵を価値に変え、環境と調和しながら地域の稼ぐ力や暮らしの質を高めていきます。

そして、未来を拓く原動力は「自然と人」「人と人」のつながりです。

自然の価値を守り、活かしながら、世代や立場を超えて市民が対話し、協働することで、地域の活力だけでなく将来への持続可能性も高めていくことができます。

行政だけでなく、市民・企業・団体など多様な主体がつながり、自然と共に培ってきた知恵を次の一歩に変えていく——そんな「ここがいい」と実感できる名寄の未来を、みんなで切り拓いていきます。

3 基本目標（案）

基本目標Ⅰ 市民の力と健全な経営で歩む持続可能なまちづくり【市民参画・健全財政】

市民一人ひとりがまちづくりの主役として参画し、地域課題の解決に向けて共助・協働する社会を目指します。また、多様化する市民ニーズを的確に反映させるため、情報の共有と対話を推進し、透明性の高い開かれた行政運営を推進します。

また、人口減少に伴う税収減や社会保障費の増大を見据え、事務事業の不断の見直しやDXの推進による行政効率化を図ります。

基本目標Ⅱ 誰もが健やかに安心して暮らせる支え合いのまちづくり【保健・医療・福祉】

こどもから高齢者まで、住み慣れた地域で健やかに自分らしく暮らし続けることができるよう、地域医療体制の維持・確保と福祉サービスの充実を図ります。特に、市立病院を中心とした地域医療体制の維持確保や、健康寿命の延伸に向けた予防医療・健康づくりを推進します。

あわせて、高齢者や障がい者が社会から孤立することなく安心して生活できるよう、地域住民や関係機関が連携した包括的な支援体制を構築します。

基本目標Ⅲ 快適な都市空間と自然が調和する安全なまちづくり【生活環境・都市基盤】

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、ゼロカーボンシティとして再生可能エネルギーの導入や環境教育を推進するとともに、次期中間処理施設の供用開始を見据え、ごみの資源化と減量化を市民・事業者一体で推進し、環境負荷を最小化する持続可能なライフスタイルの確立を目指します。

また、老朽化する公共施設やインフラの戦略的な維持管理を進め、将来にわたって機能的な都市環境を維持します。

あわせて、豊かな自然環境の保全と、脱炭素社会に向けた環境負荷の低減に取り組みます。激甚化する自然災害に対しては、防災・減災対策の充実と市民の防災意識の向上を両輪で進め、雪国の特性に対応した強靱で快適な居住空間を形成します。

II 基本構想

基本目標Ⅳ 地域の資源を活かした活力とにぎわいのあるまちづくり【産業振興】

基幹産業である農業において、スマート農業技術の実装による生産性向上と担い手確保を支援し、もち米やアスパラガス等の「名寄ブランド」の価値を高めます。

また、本市の物流拠点性を活かした企業誘致や既存企業への支援を通じて、地域経済の活性化と良質な雇用機会の創出を図ります。

さらに、スポーツ合宿の誘致や豊かな自然を活かした滞在型観光コンテンツの開発を民間と連携しながら推進します。

基本目標Ⅴ 豊かな心と個性を育み文化を継承するまちづくり【教育・文化・スポーツ】

次代を担う子どもたちが多様な個性を伸ばせるよう、児童生徒一人一人の資質能力、興味・関心・意欲などを的確に捉え、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図ります。

また、市民が生涯を通じて学び続け、充実した人生を送ることができるよう、スポーツや文化活動に親しめる環境整備に努めます。

また、歴史や文化財の継承については、北国博物館を核とした地域の歴史や文化の普及活動を推進するとともに、地域の宝として文化財の保護と伝承活動の支援を行います。

4 施策の体系（案）

将来像の実現に向けて、まちづくりの5つの基本目標と主要施策の体系を次のとおり設定し、総合的かつ計画的な施策を展開します。



5 土地利用の考え方（案）

本市の土地利用においては、豊かな自然環境と広大な優良農地を維持・保全しつつ、市民が安全・安心かつ快適に暮らすことができる機能的な都市空間の形成を目指す必要があります。

また、今後のまちづくりは、人口の急激な減少と少子高齢化や、地域経済及び市の財政面の課題などに対して、持続可能な都市経営を可能とするコンパクトシティ化を進めていくことが重要です。

そのため、名寄地区および風連地区の既成市街地を中心拠点・地域拠点と位置付け、生活サービス機能や公共施設のコンパクト化により、持続可能な都市構造への転換を図るものとします。

基幹産業を支える農業振興地域については、農地の集団化や生産基盤の整備を優先し、無秩序な市街化を抑制することで食料供給基地としての機能を強化する一方で、天塩川や名寄川をはじめとする水辺空間や森林資源については、市民の憩いの場や観光・レクリエーション資源としての有効活用を図り、自然と都市機能が調和した本市らしい土地利用を推進します。

■土地利用の方向性

ゾーン名称	対象エリアのイメージ	土地利用の方向性
都市拠点ゾーン	名寄駅周辺・風連駅周辺	公共施設、医療、商業、福祉機能を集約。歩いて暮らせる利便性の高い居住環境を整備し、中心市街地の活性化を図ります。
居住誘導ゾーン	既存市街地およびその周辺	安全で快適な住環境を維持します。空き家対策や低未利用地の活用を進め、無秩序な拡大を抑えつつ、密度を維持した居住を促進します。
産業・物流軸ゾーン	国道40号バイパス・JR沿線	交通利便性を活かし、広域的な商業施設、物流拠点、工業機能を配置し、道北の流通の要衝としての機能を最大化します。
農業振興・生産ゾーン	郊外部の農地	基幹産業である農業の生産基盤を厳格に保護します。スマート農業の導入や農地集約を促進し、持続可能な食料供給基地を維持します。
自然環境・共生ゾーン	天塩川・名寄川流域、山林部	森林や水辺の生態系を保全。キャンプ場やスポーツ施設など、自然と触れ合うレクリエーションの場として活用しつつ、防災機能を維持します。

6 将来の展望と方向性

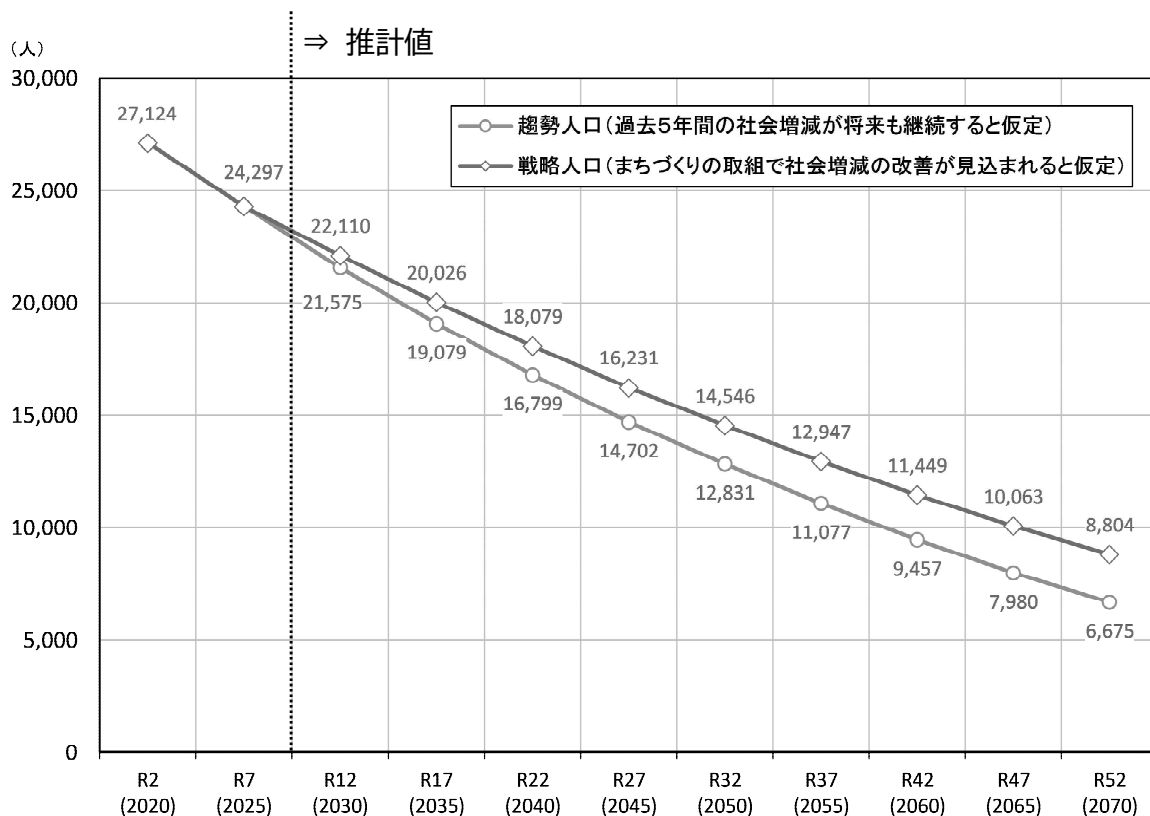
(1) 目標人口の設定

国立社会保障・人口問題研究所における「日本の将来推計人口」の推計方法(コーホート要因法)を用いて、本市の将来人口推計を行った結果を下記のグラフに示します。

過去5年間の社会増減が将来も継続すると仮定した「趨勢人口」は、令和17年(2035年)に総人口が2万人を下回り、令和42年(2060年)には1万人を切る推計結果となっています。

過去10年間の社会増減をベースに、まちづくりの取組によって社会増減に改善が見込まれると仮定した「戦略人口」では、令和17年(2035年)に20,000人以上の総人口を確保することができる推計となっており、本計画ではこの「戦略人口」を目標人口として設定します。

■総人口の将来推計結果(趨勢人口と戦略人口)



出典:令和7年まで「住民基本台帳」、令和12年以降はコーホート要因法による推計値

II 基本構想

(2) 持続可能な財政運営

本市の財政環境は、生産年齢人口の減少に伴う市税収入の縮小が予測される一方、少子高齢化の進展による社会保障関係経費の増大が見込まれるなど、これまで以上に戦略的な財政運営が求められる局面を迎えています。

令和6年度決算では、単年度収支で7,697万円の黒字を確保しており、これまでの堅実な財政運営により一定の財政基盤が築かれています。一方で、実質単年度収支や経常収支比率、将来負担比率といった各指標には改善の余地があり、これらを的確に把握しながら、より強固な財政体質への転換を図っていくことが求められます。

こうした状況を、持続可能なまちづくりに向けた財政改革の好機と捉え、限られた財源の効果的な配分と事業の選択と集中を進めることで、「攻め」と「守り」を両立した財政運営を目指します。

加えて、ふるさと納税のさらなる活用をはじめとする自主財源の確保・拡大に積極的に取り組み、まちの魅力を財政面の力に変えていくことで、将来世代が希望を持てる健全で活力ある財政基盤を築いていきます。

(3) 未来を見据えた公共施設の適正配置

本市が保有する公共建築物のうち建築後30年以上を経過したものは全体の61%を占めています。その他、インフラ施設(道路・橋りょう・上水道・下水道)についても、その施設の多くが一般的な耐用年数とされる40年～60年を間もなく迎えることとなります。

公共建築物の中でも、名寄市役所庁舎(名寄庁舎・風連庁舎、智恵文支所)、名寄消防署をはじめとして、各種スポーツ施設、学校教育施設は老朽化が進んでおり、早急な対策が必要となっています。

こうした状況は、まちの未来を見据えた施設の再整備に取り組む大きな転換期でもあることから、施設の利用状況や市民ニーズを的確に捉え、効果的・効率的な整備を推進することで、次の世代が安心して利用でき、まちの活力を支える公共施設へと転換させていきます。

あわせて、将来世代に過度な負担を残さず、誰もが誇りを持てる持続可能な施設環境の実現を目指します。




第3次総合計画における基本構想について

【基本理念】

旧名寄市・旧風連町	新名寄市総合計画（第1次）	庁内検討若手職員ワーキンググループ 第2次総合計画策定に向けた提言書	第2次総合計画	第3次総合計画（案）
<p>第4次名寄市総合計画</p> <p>まちづくりの4つの視点</p> <p>産業 「活力あふれる」 ふるさと・名寄づくり</p> <p>人 「いきいき輝く」 ふるさと・名寄づくり</p> <p>生活 「安心・健やかな」 ふるさと・名寄づくり</p> <p>冬 「雪質日本一を楽しむ」 ふるさと・名寄づくり</p>	<p>まちづくりの5つの基本理念</p> <p>協働 市民自治、地域主権の理念のもと、市民と行政が協働する地域自治組織を創設し、自立するまちを目指します。</p> <p>健康 人と人が支え合い、健やかに暮らすことができ、一人ひとりが生涯輝いていられるまちを目指します。</p>	<p>まちづくりの基本理念</p> <p>人づくり まちづくりの原動力は人であり、まちは市民に支えられて成り立つものであることから、まちづくりの原点は人づくりといえます。市民一人ひとりが地域や社会の担い手となり、力を発揮することのできるまちをつくります。</p>	<p>まちづくりの3つの基本理念</p> <p>人づくり まちづくりの原動力は人であり、まちは市民に支えられて成り立つものであることから、まちづくりの原点は人づくりといえます。故郷への誇りと愛着を育み、また、生涯を通して学び、スポーツ・文化に親しめる環境をつくり、市民一人ひとりが地域や社会の担い手となり、力を発揮することのできるまちをつくります。</p>	<p>まちづくりの3つの基本理念</p> <p>人づくり 「まちづくりは人づくり」という言葉があるとおり、活力ある豊かなまちを築いていくためには人の力が大きな原動力になります。 こどもから大人まで生涯を通じて学ぶことができる環境をつくり、故郷への誇りと愛着持ち、まちの未来に主体的に関わる人材を育むことを大切にしてまちづくりを推進します。</p>
<p>第3次風連町総合計画</p> <p>まちづくりの5つの風</p> <p>地場産業の振興や新たな産業の創出など、生活基盤の整備を図る 「みのりの風」</p> <p>豊かな自然や歴史・文化をまちづくりに生かし、快適な環境を生み出していく 「くらしの風」</p> <p>高齢化社会に備え、いつまでも健康で暮らしていける 「やすらぎの風」</p> <p>生涯を通じて学び、自らが生きがいのある人生を送る 「まなびの風」</p> <p>地域間の連携と確かな行政を進める 「ふれあいの風」</p>	<p>生活 豊かな緑を大切にし、自然と調和した快適な生活環境を確保し、未来へとつなぐまちを目指します。</p> <p>活力 地域の特性を活かしながら産業間連携を進め、自立的に発展する活力あるまちを目指します。</p> <p>人づくり 生涯学習活動や文化活動を充実させ、市立大学などの地域資源を活かした個性あふれるまちを目指します。</p>	<p>暮らしづくり まちづくりの基礎は暮らしであり、まちは日々の人々の暮らしで成り立つものであることから、まちづくりの根幹は暮らしづくりといえます。市民一人ひとりが安心して安らぎのある持続可能な暮らしができるまちをつくります。</p> <p>元気づくり まちづくりの活力は元気であり、まちは元気によって支えられています。まちづくりの源は元気づくりといえます。市民一人ひとりがまちの魅力を認識し、まち全体が元気にあふれた、希望のあるまちをつくります。</p>	<p>暮らしづくり まちづくりの基礎は暮らしであり、まちは日々の人々の暮らしで成り立つものであることから、まちづくりの根幹は暮らしづくりといえます。市民と市が協働し、また、安全で安心して暮らすことのできる環境をつくり、市民一人ひとりが安心して安らぎのある持続可能な暮らしができるまちをつくります。</p> <p>元気づくり まちづくりの活力は元気であり、まちは健康や資源といった地域の元気によって発展していくものであることから、まちづくりの源は元気づくりといえます。生涯健康で生き活きと輝き、また、地域特性を活かした資源の発掘・利用ができる環境をつくり、市民一人ひとりがまちの魅力を認識し、まち全体が元気にあふれた、希望のあるまちをつくります。</p>	<p>つながりづくり 複雑化する地域の課題を解決し、未来へ向けて新たな活力を生み出していくためには、多様な主体が手を取り合い、力を合わせる事が不可欠です。 新たな価値の創造を目指し、人と人、人と組織、デジタルとアナログなど、様々なつながりを大切にしてまちづくりを推進します。</p> <p>幸せづくり これからのまちづくりは、物質的な豊かさと精神的な豊かさが調和した、市民の心からの笑顔が増えるまちを目指すことが必要となります。 市民が日々感じる心の充足感や、生きがい、安心感といった「市民幸福度の向上」を大切にしてまちづくりを推進します。</p>

第3次総合計画における基本構想について

【将来像等】

旧名寄市・旧風連町	新名寄市総合計画（第1次）	庁内検討若手職員ワーキンググループ 第2次総合計画策定に向けた提言書	第2次総合計画	第3次総合計画（案）
<p>第4次名寄市総合計画</p> <p>【まちづくりテーマ】 第3次計画で策定されたテーマですが、広く市民生活に浸透していますので、名寄2世紀のまちづくりを展望するため新計画へ継続します。</p> <p>きらきらいきいき 北の都まち なよろ</p> <p>【名寄2世紀のまちづくりの目標】 まちづくりテーマを補完しめざす都市像を明らかにするため、「名寄2世紀のまちづくりの目標」を次の通り定めます。</p> <p>自然の恵みが、元気いっぱいの産業といきいきした人を育み 快適な環境で健康・安心への想いが満たされる 生活創造のまち・名寄</p> <p>第3次風連町総合計画</p> <p>【キャッチフレーズ】 「いい夢はこぶ風のまち」</p> <p>【将来像】 『新・人間生活都市・ふうれん』 これは、21世紀に向けて、穏やかではありませんが、着実に夢を膨らませる新しい風（ニューウインド：NEW WIND）を、町民と行政が一体となって巻き起こしていこうとするものです。</p>	<p>【キャッチフレーズ】</p>  <p>”星・雪・きらめき”は、名寄市の豊かな自然環境のすばらしさやいきいきとした市民の姿を表しており、”緑の里なよろ”は、天塩川の恵みに育まれてきた農業をはじめとする産業と人と人との結びつきを大切に支え合い、一人ひとりが輝く名寄のまちを表しています。</p> <p>【将来像】 基本理念を踏まえ、目指すべき将来像を次のように設定します。</p> <p>自然の恵みが人と地域を育み 市民みんなで創る 心豊かな北のまち・名寄</p> <p>天塩川の恵みや、美しい四季の自然と気候風土から培われた農業を基幹として発展してきた歴史や伝統と文化は、先人が残してくれた大切な財産です。 このことに畏敬の念を抱き、私たちは、未来に誇れる郷土をつくるために、人と人との結びつきを大切に、市民一人ひとりが創造力を発揮して、地域が持つ「本物の豊かさ」を追求するまちを目指します。</p>	<p>【将来像】 この将来像の実現に向けて、市民と行政が互いに役割を認識して進んでいくものとします。</p> <p>【協働】市民と行政が連携し 育む住みよい「なよろ」</p> <p>第2次名寄市総合計画の計画年次には、人口減少、少子高齢化、ライフラインの老朽化に伴う対応等さまざまな問題が予想されています。これらの問題に立ち向かうためにはさまざまな施策、場面において市民と行政の協働を積み重ねて、地域力を向上させていくことが必要です。</p>	<p>【キャッチフレーズ】</p> <p>○ 第1次総合計画のキャッチフレーズが、名寄市のイメージとして広く浸透していることから、第2次総合計画へ継続する。</p>  <p>【将来像】 自然の恵みと財産を活かし みんなでつくり育む 未来を拓く北の都市(まち)・名寄</p> <p>豊かな自然と先人により培われた歴史・文化を尊重し、市民と行政との協働により、故郷への誇りと愛着を育むとともに、新たな時代の中で、人や地域との絆を強め、これからも誰もが住み続けたいと思える北の未来を拓く都市(まち)を目指します。</p>	<p>【キャッチフレーズ】</p> <p>○ 第1次総合計画のキャッチフレーズが、名寄市のイメージとして広く浸透していることから、第3次総合計画へ継続する。</p>  <p>【将来像】 別紙 資料2-3 のとおり</p>

○ 第3次総合計画における、目指すべき「将来像」については、次に掲げる背景を踏まえ、将来像（案）をベースに総合政策部会において検討します。

【背景】

- 第3次総合計画期間中においては、少子高齢化や人口減少の進行が早まることが予測され、地域にとって労働力の減少や地域コミュニティの機能低下といった影響が生じることが考えられます。
- また、市政運営においても、歳入の減少が見込まれる中、公共施設やインフラの老朽化対策や扶助費の増大などにより非常に厳しい行財政状況が続くことが想定されます。
- このような状況の中、身体的・精神的・社会的に良好な状態にあることを意味するウェルビーイング（幸せ）が近年注目されており、この視点を持って市民が幸せを実感できるまちを構築していくことが求められています。
- また、地域の振興を図るための近隣自治体と連携した取組を進めていく上で北・北海道中央圏域定住自立圏の中心市であり、上川北部地域における中核的都市でもある本市に対しては、今後、より一層のリーダーシップを発揮することが求められることが想定されます。

【将来像（案）】

【将来像】

「ここでいい」じゃなく「ここがいい」
豊かな自然と人のつながりで未来を拓くまち名寄

〈市民ワークショップにおける将来像案〉

- 【A】 自然の恵みで健やかな暮らしと若者に寄りそい、地域でつながる活気あるまち名寄
- 【B】 耀くまちNAYORO
- 【C-1】 「ここでいい」じゃなく「ここがいい！」
つながりを大切に作る幸せをつむぐまち笑顔でただいまナヨロ！
- 【C-2】 「農」と「自然」とともに生きる小さくても雪質が輝くスノータウン名寄
- 【D】 なよろって なんか よいまち ろーかるだけど 笑顔あふれる～ネオ♡ローカル
- 【E-1】 豊かな自然を活かし 未来を共創する開かれたまち名寄
- 【E-2】 人の営みと自然が合流し 心地よい豊かさを生み出す ナイオロプトとまち
- 【F】 未来へののびゆく愛～きらっと輝く名寄が好き～
- 【G】 自然NA笑顔YOROこびきらめくみんなが繋がる都市へ

〈キーワード〉

- 【A】 自然 若者 暮らし 人
- 【B】 雪・星・人・市 イメージ 可能性
- 【C】 つながり 幸せ 生活
ともに生きる 雪質が輝く スノータウン
- 【D】 名寄の良さ ネオローカル
- 【E-1】 主体性 協働 自然 安心・安全
- 【F】 愛 つながり 自然

第3次総合計画における基本構想について

【基本目標】

旧名寄市・旧風連町	新名寄市総合計画（第1次）	庁内検討若手職員ワーキンググループ 第2次総合計画策定に向けた提言書	第2次総合計画	第3次総合計画（案）
<p>第4次名寄市総合計画</p> <p>【施策の大綱】</p> <p>I 公開と参加でつくるまちづくり (行財政・市民参画・交流活動)</p> <p>II 安全で自然と環境にやさしいまちづくり (生活環境・コミュニティ)</p> <p>III みんなで助け合い健康で安心して暮らせるまちづくり (保健・医療・福祉)</p> <p>IV ゆとりと潤いのある快適なまちづくり (都市基盤)</p> <p>V 心豊かな人間性とスポーツ・文化の誇れるまちづくり (教育・文化・スポーツ)</p> <p>VI 魅力と活力ある産業が育むまちづくり (産業・観光・雇用)</p>	<p>●基本目標1（市民参画・健全財政） 市民と行政との協働によるまちづくり</p> <p>市民がまちづくりに参加できる機会を広げ、市民自治の制度的な仕組みづくりに努めていきます。また、情報公開を積極的に進め、市政に関する情報の共有化を図り、コミュニティ活動の推進、人権尊重、男女共同参画の推進に努めるとともに、情報通信技術を活用した市民サービスの向上を図ります。さらに、行財政改革を推進し、行政評価、行政組織の見直しなど、厳しい財政事情や地方分権に対応した効果的・効率的な行政運営を進めます。</p> <p>●基本目標2（保健・医療・福祉） 安心して健やかに暮らせるまちづくり</p> <p>市民の健康づくりを促進するとともに、どこにいても適切な医療が受けられるように地域医療の充実を図ります。また、子どもがのびのびと育ち、女性が仕事を続けながら安心して子どもを産み育てられるよう、保育サービスの充実やひとり親家庭への支援、遊び場の確保など、子育て環境を整備します。さらに、市民が互いに助け合う地域福祉社会づくりを進め、福祉・介護保険サービスの提供体制の充実を努めます。</p> <p>●基本目標3（生活環境・都市基盤） 自然と環境にやさしく快適で安全なまちづくり</p> <p>多彩な自然環境の保全を図るとともに、景観の整備や少子高齢化に対応した居住環境の整備、ごみの排出抑制・再利用や処理体制の整備など、生活環境の整備を進めます。また、消防・救急・防災対策など、生活安全対策の強化に努めます。さらに、市街地の計画的整備や道路・交通ネットワークの整備、雪に強い除排雪体制の確立に努めます。</p>	<p>子育て</p> <p>安心して産み育てられ、将来を担うすべての子どもたちが健やかに成長できる社会を目指します。</p> <p>子どもが健やかに成長するには、安心して出産・育児ができる環境が不可欠です。安心して子どもを産み、子育てに喜びをもてるよう、子育てに関わるすべての市民を支援し、地域全体で子どもを育てられるような子育て環境を整備し、不安や負担の軽減を図ります。</p> <p>教育</p> <p>すべての年代が生涯を通して学び、スポーツ・文化に親しめる環境づくりに努めます。</p> <p>地域に根付き、地域特性に培われた人材の育成は市民共通の願いです。その実現には幼児から高齢者までのすべての年代において地域の特性を活かした学習・体験機会の提供が不可欠です。市民の財産である市立大学を、さらに身近に感じられるよう連携した取り組みを進めます。</p> <p>市民自治</p> <p>市民と行政が地域の課題などを認識し合い、助け合い、支え合える地域をつくります。</p> <p>市民と行政が共に考え、共に歩む協働のまちづくりを進めるため、地域住民が自主的、主体的に地域づくりを推進できるよう、市民の意見や提言等市民ニーズを的確に市政に反映します。また、男女がその個性や能力を十分に発揮し、支え合う男女共同参画社会推進のため、意識啓発活動など必要な施策を実施します。</p>	<p>●基本目標1（市民参画・健全財政） 市民と行政との協働によるまちづくり</p> <p>市民がまちづくりに参加できる機会を広げ、故郷への誇りと愛着が育まれるまちづくりに努めていきます。また、情報公開を積極的に進め、市政に関する情報の共有を図るとともに、人権尊重、男女共同参画の推進を図ります。</p> <p>さらに、行財政改革を推進し、行政運営の見直しを行うとともに、ICTを活用した市民サービスの向上に努め、持続可能なまちづくりのため、効果的・効率的な行政運営を進めます。</p> <p>●基本目標2（保健・医療・福祉） 市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり</p> <p>住み慣れたこの地域で、こども、高齢者、障がい者などすべての市民が、互いに支え合いながら、自分らしく生きるための「自立と共生」の地域社会づくりを目指します。</p> <p>市民誰もが安心して健やかに暮らしていくことができるように、保健医療福祉の連携をさらに進めるとともに、民生委員児童委員をはじめとする市民の方々と協働して、みんなにやさしい福祉のまちづくりを進めます。</p> <p>●基本目標3（生活環境・都市基盤） 自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり</p> <p>豊かな自然環境の保全を図るとともに、快適な居住環境の整備、ごみの適正処理のための体制と施設など、生活環境の整備を進めます。</p> <p>また、消防・救急、防災、交通安全など、生活安全対策の強化に努めます。</p> <p>さらに、都市機能を集約した配置による効率的な行政サービスの提供を目指し、人口減少や少子高齢化に対応するコンパクトなまちづくりを推進します。</p> <p>また、交通ネットワークの整備や道路・公園・上下水道・公営住宅などの都市基盤施設の維持や冬の道路環境の向上など、継続して、安全安心なライフラインの確保に努めます。</p>	<p>○ 第3次総合計画においては、各政策分野ごとの「分野別計画」と、全庁横断的な取組が求められる「重点的施策」を設定することとしており、分野別計画については、長期的な視点を持つ必要があることに加え、総合計画審議会の専門部会において各委員の専門的な見地から検討を進める必要があることから、分野別計画の大項目となる「基本目標」については、政策の継続性の確保と専門部会の所掌との整合を図るため、第2次総合計画の基本目標の考え方を踏襲することとし、5つの政策分野に区分する。</p> <p>○ 基本目標の標題は、それぞれ所掌する専門部会において検討する。</p> <p>（市民参画／健全財政） : 総・市・教部会 （保健／医療／福祉） : 保・医・福部会 （生活環境・都市基盤） : 総・市・教部会 生活環境 : 総・市・教部会 都市基盤 : 産・都・交部会 （産業振興） : 産・都・交部会 （教育・文化・スポーツ） : 総・市・教部会</p> <p>○ それぞれの基本目標の標題については、第1・2次総合計画を踏襲し、「～まちづくり」とする。</p> <p>●基本目標1（市民参画・健全財政） 市民の力と健全な経営で歩む持続可能なまちづくり</p> <p>市民一人ひとりがまちづくりの主役として参画し、地域課題の解決に向けて共助・協働する社会を目指します。また、多様化する市民ニーズを的確に反映させるため、情報の共有と対話を推進し、透明性の高い開かれた行政運営を推進します。</p> <p>また、人口減少に伴う税収減や社会保障費の増大を見据え、事務事業の不断の見直しやDXの推進による行政効率化を図ります。</p> <p>●基本目標2（保健・医療・福祉） 誰もが健やかに安心して暮らせる支えあいのまちづくり</p> <p>こどもから高齢者まで、住み慣れた地域で健やかに自分らしく暮らし続けることができるよう、地域医療体制の維持・確保と福祉サービスの充実を図ります。特に、市立病院を中心とした地域医療体制の維持確保や、健康寿命の延伸に向けた予防医療・健康づくりを推進します。</p> <p>あわせて、高齢者や障がい者が社会から孤立することなく安心して生活できるよう、地域住民や関係機関が連携した包括的な支援体制を構築します。</p>
<p>第3次風連町総合計画</p> <p>【五つの柱】</p> <p>I 魅力ある生産基盤の拡充 (産業・観光振興)</p> <p>II 快適で夢広がる生活環境 (都市基盤)</p> <p>III むくもりと安らぎのある郷 (保健・医療・福祉・環境)</p> <p>IV いきいきと学びつづける教育・文化 (教育・文化・スポーツ)</p> <p>V 21世紀への希望あふれるまちづくり (行財政・市民参画・交流活動・コミュニティ)</p>				

旧名寄市・旧風連町	新名寄市総合計画（第1次）	庁内検討若手職員ワーキンググループ 第2次総合計画策定に向けた提言書	第2次総合計画	第3次総合計画（案）
	<p>●基本目標4（産業振興） 創造力と活力にあふれたまちづくり</p> <p>収益性の高い農業生産や農畜産物の加工・ブランド化などを推進します。また、林業の育成や森林の活用にも努めます。さらに、魅力ある商店街づくり、農林業と商工業が融合した産業の振興を図るとともに、雇用の安定向上に努め、自然体験型観光・農業体験など地域の特性を活かしたメニューを充実していきます。</p> <p>●基本目標5（教育・文化・スポーツ） 心豊かな人と文化を育むまちづくり</p> <p>子どもたちの学ぶ意欲を育み、将来を担う人材の育成を図り、市立大学を市民の共有財産としてその施設・機能を最大限活用するとともに、幼稚園や保育所から大学までの連携を一層深め、生涯にわたって自発的な学習を続けていくことができる生涯学習環境の整備に努めます。また、年齢や体力に応じて気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションの推進、地域文化の継承と創造を積極的に進めます。</p>	<p>快 適</p> <p>人と自然が調和した、だれもが安全で安心して暮らせる快適なまちを目指します。</p> <p>市民が中心となって、地域の住環境について考える機運を高めるとともに、地域の実情やニーズを十分認識し、老朽化が進むライフラインを中心に、計画的に整備します。また、防災体制の強化や除排雪対策にも取り組み、いつでも安心して住み続けられる環境を維持します。</p> <p>生涯健康</p> <p>市民一人ひとりが主体的に健康づくりを行い、生涯健康で生き活きと輝くまちを目指します。</p> <p>少子高齢化が進み、労働環境・条件等により健康格差が広がっていく中で、運動機会や生涯学習機会を提供し、健康的な生活ができる環境を整備し、市民が健康で自立した生活ができる期間（健康寿命）の延伸を図ります。また、高齢者が生涯安心して暮らせるよう、市民との相互理解のもと、医療・福祉の環境整備を進めます。</p> <p>資 源</p> <p>地域資源の連携による地域の特性を活かした資源の発掘・利用を目指します。</p> <p>市民が地域に誇りを持ち、今ある資源を有効に活用する中で、観光資源や魅力を発掘し、発信できる環境を整備します。また、地場産品の付加価値向上と競争力の強化を図るため、生産から商品開発・加工・流通・販売・販路拡大（いわゆる6次産業化）に向けた戦略的な取り組みを支援します。</p>	<p>●基本目標4（産業振興） 地域の特性を活かしたにぎわいと活力</p> <p>収益性の高い農業生産や農畜産物の付加価値向上に向けた取組、農業・農村の理解を深める交流を推進します。また、森林施業の集約・効率化を図りながら民有林の造林を進め、森林保全と林業の振興に努めるとともに、持続可能な農林業を構築するため、担い手の育成・確保を推進していきます。</p> <p>さらに、活力溢れる中心街、農林業と商工業が融合した産業の振興を図るとともに、雇用の安定に努め、地域資源を活用した体験型メニューの充実などにより、国内旅行者はもとよりインバウンド観光を推進していきます。</p> <p>●基本目標5（教育・文化・スポーツ） 生きる力と豊かな文化を育むまちづくり</p> <p>未来を担う子どもたちが、多様な可能性を伸ばすことができるよう、教育・保育施設から名寄市立大学、さらに家庭や地域社会がそれぞれの役割を果たし、「生きる力」を育む教育に努めます。</p> <p>また、すべての人が生涯にわたって学習し、質の高い文化・芸術に親しみ、ライフステージに応じたスポーツ活動ができる環境をつくり、市民が誇れる優れた人材の育成に努め、豊かで活力あるまちづくりを進めます。</p>	<p>●基本目標3（生活環境・都市基盤） 快適な都市空間と自然が調和する安全なまちづくり</p> <p>2050年カーボンニュートラルの実現に向け、ゼロカーボンシティとして再生可能エネルギーの導入や環境教育を推進するとともに、次期中間処理施設の供用開始を見据え、ごみの資源化と減量化を市民・事業者一体で推進し、環境負荷を最小化する持続可能なライフスタイルの確立を目指します。</p> <p>また、老朽化する公共施設やインフラの戦略的な維持管理を進め、将来にわたって機能的な都市環境を維持します。</p> <p>あわせて、豊かな自然環境の保全と、脱炭素社会に向けた環境負荷の低減に取り組みます。激甚化する自然災害に対しては、防災・減災対策の充実と市民の防災意識の向上を両輪で進め、雪国の特性に対応した強靱で快適な居住空間を形成します。</p> <p>●基本目標4（産業振興） 地域の資源を活かした活力とにぎわいのあるまちづくり</p> <p>基幹産業である農業において、スマート農業技術の実装による生産性向上と担い手確保を支援し、もち米やアスパラガス等の「名寄ブランド」の価値を高めます。</p> <p>また、本市の物流拠点性を活かした企業誘致や既存企業への支援を通じて、地域経済の活性化と良質な雇用機会の創出を図ります。</p> <p>さらに、スポーツ合宿の誘致や豊かな自然を活かした滞在型観光コンテンツの開発を民間と連携しながら推進します。</p> <p>●基本目標5（教育・文化・スポーツ） 豊かな心と個性を育み文化を継承するまちづくり</p> <p>次代を担う子どもたちが多様な個性を伸ばせるよう、児童生徒一人一人の資質能力、興味・関心・意欲などを的確に捉え、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図ります。</p> <p>また、市民が生涯を通じて学び続け、充実した人生を送ることができるよう、スポーツや文化活動に親しめる環境整備に努めます。</p> <p>また、歴史や文化財の継承については、北国博物館を核とした地域の歴史や文化の普及活動を推進するとともに、地域の宝として文化財の保護と伝承活動の支援を行います。</p>

1 第1回市民ワークショップまとめ

【参考】

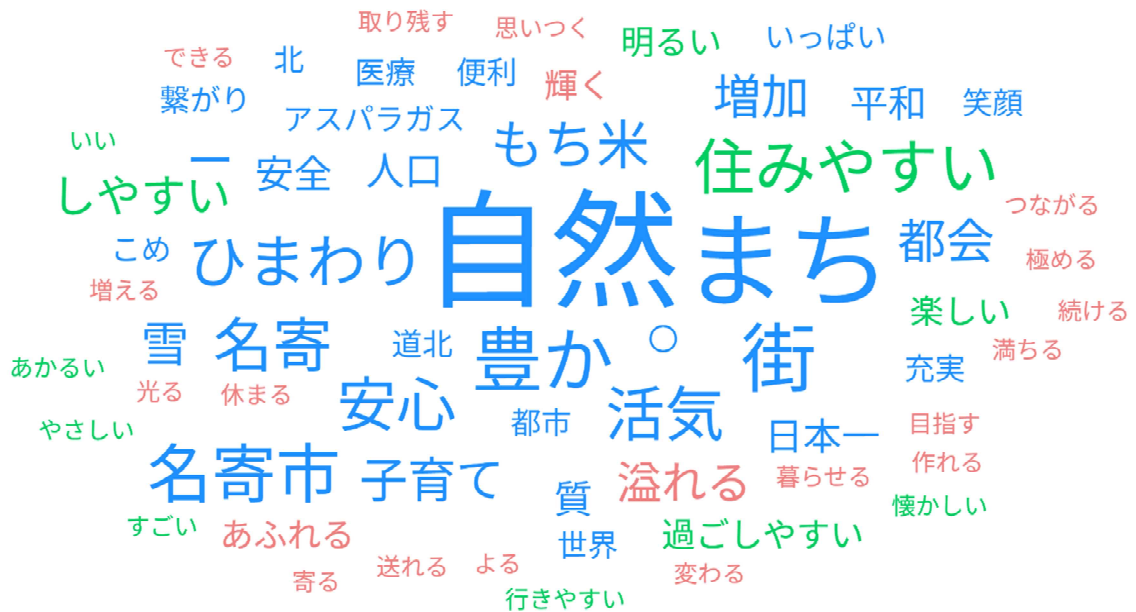
テーマ	「今後10年間で心配なこと、気になること」(カッコ内はシール数)	
市民参画・健全財政	<p>【人口減少】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の市外流出(●8) ・若い人にとって魅力ある街になっているか(●3) <p>【市の財政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の財政悪化(●5) <p>【まちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり進んでいるのか?(●3) 	<p>【主体性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクワク、活気(●2) ・自分事。関心(●1) ・デジタル難民(●1) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢の人は住みやすい?(●1) ・遊ぶ場所(●1) ・コミュニティをつくる場(●1)
保健・医療・福祉	<p>【医療体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療体制の維持(●9) <p>【子育て】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共働き世帯の増加(子ども家で1人に)(●2) 	<p>【高齢者福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免許返納後の足がない問題(●3) ・介護人材の確保(外国人を雇う?)(●2) ・保険料の増加(●1)
生活環境・都市基盤	<p>【自然対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クマ対策(●5) ・川のルール改定(●1) <p>【道路】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路整備(除雪など)(●5) <p>【除排雪】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除雪の人手、運転手不足(●2) ・除排雪を今のまま維持できるか(●1) <p>【空き家】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家増加(●2) 	<p>【子どもの居場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所 地域での関わり(●4) ・子どもの遊び場が少ない(●5) ・かべのある公園(●1) <p>【交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭川～名寄をもっとスムーズに(●1) ・公共交通手段がなくなる(●1) <p>【災害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害はおきないか?(●1)
産業振興	<p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の後継者、担い手不足(●8) ・大規模農業に向けた対策ができているか(●1) <p>【地域資源】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光で人は来る?(●2) 	<p>【産業の衰退】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街の空き(●5) ・働き先があるか(●2) ・新しくお店を始める人がいない(●2) ・イオン等商業施設の維持(●1) ・企業の撤退(●1)
教育・文化・スポーツ	<p>【スポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども、若者がやりたいスポーツができない(●6) ・文化サークルの高齢化 持続可能ではなくなる?(●1) <p>【大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名寄市立大学の存続、学生減少(●3) ・大学の活用(●1) <p>【高校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野の高校が0であることで学生の市外流出(●1) ・名寄高校の定員割れ(●2) <p>【小中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学等のクラブ活動の縮小(●1) ・学校の先生がちゃんといるか?(●1) ・小中学校の統廃合(児童にとって不便)(●1) 	<p>【進路】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が名寄に残らない(●5) ・地元に残ってもらう仕事(●4) <p>【自然教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア教育(●1) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映画館ほしい(●2) ・スキー場が存続しているかどうか(●1) ・子どもが産まれたらサポートはある?(●1) ・地域文化の担い手確保(太鼓、阿波踊り等)(●1)

2 第2回市民ワークショップまとめ

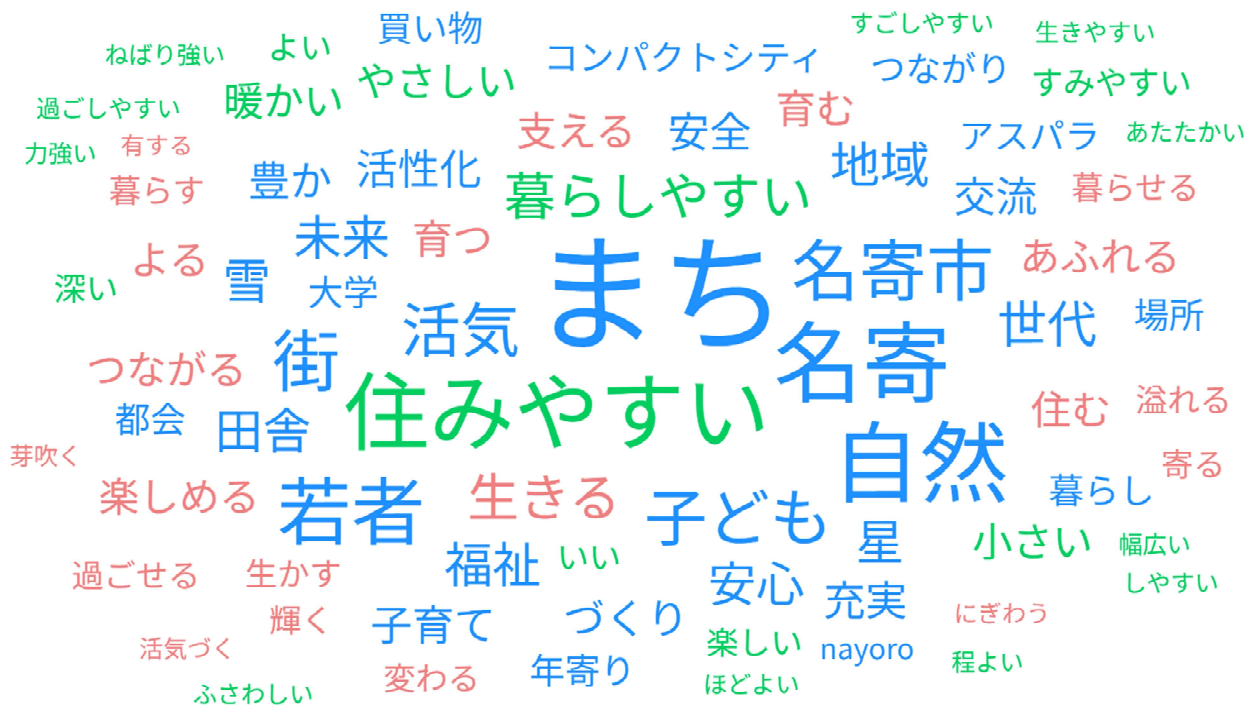
テーマ	名寄市のことで自慢したいもの、将来に残したいもの(カッコ内は付箋の数)	
市民参画・健全財政	【人材】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の良さ、優しい人多い(■4) ・ 意外に人が面白い ・ 熱心な先生多い ・ 若者が元気 ・ アウトドアガイド 	【地域振興】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のコミュニティ(■5) ・ いろんなイベント(■2) ・ 電子通貨 Yorooca(■2)
保健・医療・福祉	【病院】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合病院(■13) ・ 診察科目が多い(■2) ・ 24時間の小児科(■2) ・ 産婦人科 	
生活環境・都市基盤	【住みやすさ】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 街がコンパクト(■3) ・ 生活に不自由ない(■3) ・ 大きい商業施設(■2) ・ 旭川、札幌に行きやすい(■2) ・ ほどよい田舎 【防災・防犯】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害(地震など)が少ない(■6) ・ 物騒な事件が少ない 	【交通】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 除雪(■3) ・ 車が少なくて快適 ・ 道が広くて運転しやすい ・ のるーと 【その他】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自衛隊(■6) ・ メディア(名寄新聞、地域 FM) ・ カッパ
産業振興	【農業・農作物】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業、農産物(■5) ・ もち米、大福(■13) ・ アスパラ(■9) ・ トウモロコシ、スイートコーン(■4) ・ 米(■2) ・ 寒締めほうれんそう(■2) 	【自然・観光】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊富な自然(■8) ・ 雪、雪質 NO.1(■17) ・ 星、星空(■12) ・ オーロラ(■3) ・ ひまわり(■3) ・ 寒暖差、四季の景観
教育・文化・スポーツ	【学校・教育】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 名寄市立大学(■23) ・ 小中高大の連携教育(■2) ・ 学校と地域が密接 ・ 名寄高校、ドローン 【施設】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ピヤシリスキー場(■11) ・ スキージャンプ台(■3) ・ 天文台(■8) ・ カーリング場(■6) ・ 文化センター、エンレイホール(■4) ・ サンピラーパークと健康の森(■2) ・ 北国博物館(■2) 	【伝統・文化】 <ul style="list-style-type: none"> ・ キマロキ(■3) ・ 太鼓、阿波踊り ・ 邦輝さんの知識+上川アイヌ

テーマ	名寄市の魅力としてこれから育てたいこと(カッコ内はシール数)	
市民参画・健全財政	【まちおこし】 ・ Yorooca(●5) ・ デジタル活用(●4) ・ ウェルビーイングを感じる街づくり ・ 主体性 【交流】 ・ リンゼイ台湾交流(●1)	【地域】 ・ 商店街の再生(●3) ・ コミュニティ拠点づくり(●2) ・ 人のつながり、コミュニティ(●2) ・ 地域住民の声をしっかりとときく街に していく ・ 多様な人材
保健・医療・福祉	・ 高齢者と子供のつながり(●1) ・ 病院	・ 子育てしやすい環境
生活環境・都市基盤	【交通】 ・ 高速道路(●9) ・ 物流、防災拠点づくり(●7) ・ 道の駅(●1) ・ 旭川⇄稚内 途中で立ち寄ってもら える観光場所(●1) 【住環境】 ・ 空き地、空き家等の活用(●1)	【遊び場】 ・ 若者が楽しめるスポット(●14) ・ 遊ぶ場所がほしい(●3) ・ 公的ラウンド1(●1)
産業振興	【農業・農作物】 ・ 農業を始めたい、続けたいと思える サポート(●5) ・ 農業の担い手(●4) ・ 特産品のブランド強化(●5) ・ もち米の加工場あってほしい(●4) ・ 農作物、農業(●3) 【観光】 ・ 観光(●7) ・ 移住したくなる特色づくり(水がおい しい、野菜がおいしいなど)(●3) ・ 映える観光名所を作りたい(●2) ・ エンレイホールの知名度を上げる(●2)	【新事業】 ・ 企業誘致(●15) (データセンター、SHIROのように) ・ デジタル産業(●1) ・ 外国人産業(●1) 【アウトドア】 ・ つりフィールド(●3) ・ キャンプ場(サンピラー、望湖台)(●3) ・ サンピラーホテル(もっと稼げるよう に)(●1) 【その他】 ・ 若者の選択肢(●5)
教育・文化・スポーツ	【教育】 ・ 学校(●5) ・ 部活動(●2) ・ 天文台、天文部(●2) ・ 小学校から大学そして就職できる町 づくり(●2) ・ 大学生と地域のつながり(●1) ・ 今はないが天塩川、名寄川の活用、子 どもたちが遊べる、釣りをするところ がない。今の子どもは水切りしたこと がない?(●1)	【スポーツ】 ・ スポーツや文化活動の指導者や応援 団(●4) ・ 少年団、スポーツ団体(●1) ・ Nスポ、スポーツ×まち(●3) ・ カーリング(●2) ・ スキー場(●2)

《高校生》



《大学生》



4 まちの将来像-事例集

市町村名	将来像
名寄市 (現総合計画)	自然の恵みと財産を活かし みんなでつくり育む 未来を拓く北の都市・名寄
愛別町	子どもの笑顔かがやく恵みの大地 あいべつ
旭川市	世界にきらめく いきいき旭川 ～笑顔と自然あふれる 北の拠点 ～
音威子府村	森とともに一人ひとりの匠が活躍する村
下川町	誰ひとり取り残されず、しなやかに強く、幸せに暮らせる持続可能なまち
剣淵町	人・夢・大地 次代につなぐ 絵本の里けんぶち
士別市	天塩の流れとともに 人と大地が躍動する すこやかなまち
上川町	～自然と調査した未来～ 恵み豊かな大地と人がおりなすおもてなしのまち 上川
上富良野町	暮らし輝き 交流あふれる 四季彩のまち・かみふらの
占冠村	住む人の幸せを最大化するまちづくり
鷹栖町	笑顔 幸せ みんなでつくる あったかす
中川町	中川町 未来を拓く 森
中富良野町	絆でつながる 田園空間 なかふらの
東神楽町	花と大地と笑顔の東神楽～次世代に受け継ぐ幸せな暮らし～
東川町	多くの人が集い、誰もが生き生きと暮らす文化あふれる写真文化首都の創造 (大雪山の恵みを受けて、豊かな暮らしを共に育むまちづくり)
当麻町	人・夢・心がつながるまち とうま ～ 次世代に責任がもてる「未来」の創造 ～
南富良野町	地域の自然を活かし 協働と共創で築くまち 南富良野
比布町	住んで良かったと思えるまち
美深町	未来へ続く笑顔あふれるまち 美深
富良野市	「美しい」のその先へ。WA! がまち、ふらの
幌加内町	人に自然にやさしい故郷づくり 町民が夢と誇りを持って生きいきと暮らすまち
芦別市	みんなで築く 豊かで住みよい 人と文化の輝くまち
雨竜町	こどもからお年寄りまで笑顔があふれ、未来に希望のもてるまちづくり
浦臼町	志と覚悟をもって挑戦し、未来を拓(ひら)く
歌志内市	みんなで創る笑顔あふれるまち
岩見沢市	人と緑とまちがつながり ともに育み未来をつくる 健康経営都市
栗山町	ふるさとは栗山です。～みんなが元気なまち～
月形町	人と自然と歴史がともに輝く 共生のまち 月形
砂川市	自然に笑顔があふれ 明るい未来をひらくまち
三笠市	日本一安心して誰もが暮らし続けたい 自然豊かな元気田園産業都市
沼田町	子どもたちが誇りをもてる ふるさと創造 沼田町
上砂川町	小さな町の輝く未来へ挑戦するまち
新十津川町	新たな未来へ とともに歩もう つながる絆 かわらぬ自然と笑顔のまち

市町村名	将来像
深川市	豊かな自然と暮らしが調和した 田園都市 ふかがわ
赤平市	ひと・自然・産業が輝く 協働と共創のまち 赤平
滝川市	心が育ち 人を紡(つむ)ぐ いつまでも住み続けたい“ちょうどいい田舎”
秩父別町	協働の力で築く、安全安心で活気に満ちたまち
長沼町	ひとと自然の共生 きらめく田園と交流のまち ながぬま
奈井江町	みんなで奏でる おもいやりのまち
南幌町	緑豊かな田園文化のまち
美唄市	ともに支え合い 分かち合う 田園文化創造都市 びばい
北竜町	あかるい農法 ひまわりの北竜町
妹背牛町	小さなまちから、広がるつながり、暮らしやすいまち
由仁町	小さくてもキラリと輝くまち
夕張市	安心して幸せに暮らすコンパクトシティゆうばり
恵庭市	花・水・緑 人がつながり 夢ふくらむまち えにわ
江別市	幸せが未来へつづくまち えべつ
札幌市	「ひと」「ゆき」「みどり」の織りなす輝きが、豊かな暮らしと新たな価値を創る、持続可能な世界都市・さっぽろ
新篠津村	豊かな田園に囲まれた笑顔あふれるまち・新しのつ
千歳市	人をつなぐ世界をつなぐ空のまちちとせ
北広島市	自然と創造の調和した豊かな都市
ニセコ町	こども未来共創都市ニセコ ～ニセコ町の美しい景観と自然を未来のこどもたちへ～
喜茂別町	人と自然がきらめくまち、きもべつ
京極町	みんなでまもりつづける。羊蹄山と湧き水のまち 京極
共和町	魅力あふれる大地と笑顔あふれるひとびとがともに創生するまち～きょうわ
倶知安町	いつまでも住み続けたい町“くっちゃん”
古平町	協働で創る住みよいやすらぎの郷、ふるびら
黒松内町	人と自然が彩る なんか居心地のいいまち くらまつない
寿都町	地域の資源を地域の活力とした、賑わいあふれるまち
小樽市	自然と人が紡ぐ笑顔あふれるまち 小樽 ～あらたなる100年の歴史へ～
真狩村	笑顔でつなぐ うるおいあふれる村 まっかり
神恵内村	世界 ～S・E・K・A・I～ をつなぐ 笑顔でつなぐ むらづくり
仁木町	魅力ある、住みよい、個人の主体性と地域の共生・調和を大切にするまち ～すべては未来の子どもたちのために～
積丹町	自然・人・産業の和で築くまち 積丹
赤井川村	やすらぎと感動の赤井川 人が集まる美しいカルデラの里
島牧村	自然の恵みがあるがままに活かし、豊かな産業を育むむら
泊村	～行ってみたい・住んでみたい・帰ってきたい～ ふらり とまり
余市町	「未来に向けて住みやすいまちをつくる」 町民との協働により一人ひとりがともに力を合わせ、子や孫の世代にこの素晴らしい余市町を引き継ぎ、すべての人が安全・安心に暮らし続けられるまちづくり

市町村名	将来像
蘭越町	奥ニセコの緑と穏和と自立のまち“蘭越” ～すべての住民と 誇りを次代へつなぐ～
留寿都村	ようこそ、風薫る高原の村 留寿都へ
むかわ町	人と自然が輝く清流と健康のまち
安平町	くらしの笑顔が広がるぬくもりと活力と躍動のまち
伊達市	みんなが豊かさを感じられる市民幸福度最高のまち
厚真町	あつまる つながる まとまる 大いなる田園の町 あつま
室蘭市	室蘭が好き。みんなで創る、住み続けたいまち ～まち・ひと・みなの つながりが未来を創る～
壮瞥町	夢・希望へチャレンジ 笑顔あふれる元気なまち そうべつ ～ふるさととは子どもたちへの贈り物～
登別市	人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ
洞爺湖町	湖海(うみ)と火山と緑の大地が結びあい 元気をつくる交流のまち
苫小牧市	理想の都市「人間環境都市」
白老町	共に築く希望の未来 しあわせ感じる元気まち
豊浦町	人とつながり 自然と笑顔あふれるまち とようら ～ どころなつかしい賑わいのあるまちを目指して ～
えりも町	輝く海と大地を次世代へつなげるまちづくり
浦河町	想いを 誇りを 魅力を「つなぐ」未来へ だれもがいきいきと輝けるまち 浦河
新ひだか町	いきいき すこやか 誰もが主役になれるまち
新冠町	思いやりと笑顔あふれる”レコードなまち”
日高町	いきいきと働き、学び、安心と笑顔で暮らせるまち
平取町	みんなでつくる、未来へつなぐ。あふれる笑顔、びらとり
様似町	夢を絆を 笑顔でつなぐ まちづくり
鹿部町	きらめく海・駒ヶ岳(やま) うるおいの湯郷(さと)
七飯町	さらに優しく、たくましく 笑顔あふれる未来をめざして
松前町	生活満足度の高いまち
森町	みんなで創ろう海と緑の理想郷 もりまち ～ ころろふれあう はつらつとした爽やかなまち ～
知内町	誰もが輝く 定住・移住・交流のまち
長万部町	ひらけ！つなぐ！おしゃまんべ！！—みんなで楽しい未来へ—
函館市	北のクロスロード HAKODATE ～ともに始める 未来を拓く～
八雲町	八雲発！自然と人を未来へつなぐ
福島町	自然と人が織りなす“幸せ実感コンパクトな町” ～持続可能なまち「ふくしま」を共に創る～
北斗市	ほっとする くらしがある とともにすすめるまちづくり ～新たな時代への挑戦～
木古内町	未来をつくるハブタウン きこない
せたな町	輪になって つなぐ「せたな」の 夢未来 ～みんなが主役 笑顔あふれるまちづくり～
奥尻町	まちづくりで目指す 10年後の奥尻町
江差町	誇りある暮らしを未来へ紡ぎ、みんなでつくる自分たちごとのまちづくり江差
今金町	みんなで創る 未来を拓く物語 ～人と人の想いで紡ぐ、やさしさあふれる町～

市町村名	将来像
上ノ国町	みんなで創る 誇れるふるさと上ノ国 ～みんなで育む まちの力～
遠別町	人のつながりから生まれる 笑顔のまちづくり
初山別村	人と自然 結び合いきらめく村 しょさんべつ
小平町	人がつながり 未来がひろがる 共創のまち
増毛町	だれもが住みたい・住み続けたいふるさと増毛
天塩町	みんなで創ろう 育てよう 明るく楽しく元気なまちを
苫前町	いつまでも暮らしていける苫前に！
留萌市	みんなでつくる まち・ひと・きぼう 次の時代へ続く留萌
猿払村	誰にでもやさしいまちづくり
枝幸町	こころが結ぶ『森と海』優しさと活気あふれる北の理想郷
稚内市	海と大地と風の恵み 人が輝き挑戦し続けるまち稚内
中頓別町	小さな中頓別(まち)のしあわせをデザインする
浜頓別町	住み続けたいまち かえりたいまち 輝くふるさと はまとんべつ
幌延町	共に拓き、共に創り、未来へつなぐ！ ～ 笑顔と希望に満ちあふれるまち ほろのべ ～
利尻町	未来共創ビジョン:「今」を暮らすみんなが共に、「未来」を創造できる町
利尻富士町	ふるさとを魅力あふれる宝の島に
遠軽町	森林(もり)と清流(みず) 未来に響く 豊かなまち
興部町	”地域の誇り”未来の産業を育てる ～ひと、まち、自然が調和するまち・おこっぺ～
訓子府町	「ちょっといいね！」がたくさんあるまち くんねっぴ
佐呂間町	『自然の恵みに感謝し、人が人を支え、共に創(つ)くる、生涯の郷(さと)、サロマ』をめざして
斜里町	みんなで一緒にとりくむ、持続可能なまちづくり
小清水町	未来につながるまちづくり ～みんなで創る ずっと住みたい 大自然のまち～
清里町	うるおいと温もりで未来を創るまち きよさと
西興部村	「夢、おこす村 にしおこっぺ」
大空町	夢を絆を 笑顔で彩る大空町
滝上町	人と自然とがつながり 幸せを実感できるまち 人いきいき 町わくわく 童話村たきのうえ ～
置戸町	笑顔と夢を未来につなぐまち おけと
津別町	暮らしたい、魅力あふれるエコタウン
美幌町	ひとがつながる、みらいへつなげる ここにしかないまち ぎほろ
北見市	ひと・まち自然きらめく オホーツク中核都市ー 未来を拓く活力創造都市 北見
網走市	豊かな自然に ひと・もの・まちが輝く健康都市 網走
紋別市	流水を開発し、心豊かで活力あるオホーツク圏の中核都市
湧別町	人と自然が輝くオホーツクのまち ～ ともに考え、ともに行動し、みんなでつくる協働のまちづくり ～
雄武町	～郷土愛で築く～ 次世代へ躍進するまち・雄武 計画の名称～郷土愛で築く～「おうむ」次世代 躍進プラン
浦幌町	想いをつないで未来を創る ”わたしたちのまち” うらほろ

市町村名	将来像
音更町	みんなが住みよい 選ばれるまち おとふけ
芽室町	みんなで創り みんなでつなぐ ずっと輝くまち めむろ
広尾町	海・山・川が織りなす、希望が灯るサンタランド・ひろお
更別村	住みたい 住み続けたいまち ともにつくろう みんなの夢大地
士幌町	輝く未来へ しほろ創生
鹿追町	愛・夢・笑顔 あふれる未来へ ～支え合うまち♥しかおい～
上士幌町	未来につなぐ 笑顔かがやく 元気まち上士幌
新得町	人が集い 賑わいと 笑顔が広がり 未来につながるまち ～みんなが幸せなまちづくりをめざして～
清水町	まちに気づく まちを築く とかち清水 ～想いをミライに繋ぐまち～
足寄町	誰もが安心して暮らせる 豊かで活気あふれるまち あしよろ
帯広市	あおあお ひろびろ いきいき 未来を信じる 帯広
大樹町	人とひと・人と自然・人と宇宙がつながる 誰にでも居場所のあるまち大樹
池田町	ひとが育ち まちが育つ みんなでつくろう 明るいふるさと いけだ
中札内村	みんなで作る！ 自然と笑顔になるまち なかさつない
豊頃町	やさしさと躍動のふれ愛タウンとよころ
本別町	心を合わせて みんなの笑顔を 未来につなぐ
幕別町	みんながつながる 住みいる まくべつ
陸別町	人と自然が響き合う 日本一寒い町 りくべつ
釧路市	つながる まち・ひと・みらい ひがし北海道の拠点都市・釧路
釧路町	未来につなぐ豊かな自然と生きがいあふれるまち
厚岸町	みんなの”あつけし”新時代の創造に向かって
鶴居村	未来(あす)を奏でる鶴居スタイルの確立 ～協働による新たな時代への挑戦～
弟子屈町	「水」と「森」を守り、「人」が共に輝く、誇りと活力あふれる 夢づくりのまち 弟子屈
白糠町	生き活きしらぬか 笑顔輝くまちを目指して
標茶町	みんないきいき みんなでつくる ～自然とともに生きるまち しべちゃ～
浜中町	生命(いのち)支える大地と海 自然と調和するまち・はまなか ～未来につなごう豊かな環境～
根室市	未来志向で共に創る 海と大地に生きるまち 根室
中標津町	空とみどりが人をつないでいくまち 中標津 ～ 住みたいまち 住み続けたいまち ～
標津町	海・山・川・太平洋がおりなす 感動の大地・標津町
別海町	人がつながり 未来につながる海と大地に夢があふれるまち ～いつも心に広がるふるさと べつかい～
羅臼町	人・まち・自然いきいき 未来創造 ～魚の城下町 らうす～

名寄市総合計画(第3次)策定に向けて

第3回市民ワークショップ 報告書

令和7年12月

名寄市

目 次

1 市民ワークショップ開催概要.....	1
(1)開催日時.....	1
(2)参加者.....	1
(3)ワークショップのプログラム.....	1
2 「まちづくりで大切にしたいキーワード」まとめ.....	2
3 「名寄市の将来像」共感が多かった意見.....	3
4 グループ別の意見.....	4
《Aグループ》.....	4
《Bグループ》.....	5
《Cグループ》.....	6
《Dグループ》.....	7
《Eグループ》.....	8
《Fグループ》.....	9
《Gグループ》.....	10

1 市民ワークショップ開催概要

(1)開催日時

令和7年12月8日(月) 18:30~20:30

(2)参加者

参加者:37名(市役所若手職員含む)

事務局:5名(株ぎょうせい含む)

(3)ワークショップのプログラム

- ①アンケート調査結果の概要(10分)
- ②市民ワークショップの流れと振り返り(5分)
- ③市民ワークショップ(約1時間50分)
 - 1)テーブルファシリテーター紹介
 - 2)グループ内自己紹介
 - 3)グループワーク①(まちづくりで大切にしたいキーワード洗い出し)
 - 4)グループワーク②(名寄市の将来像検討)
 - 5)全体共有
 - 6)優先順位付け

2 「まちづくりで大切にしたいキーワード」まとめ

まちづくりで大切にしたいこと(カッコ内は付箋の数)	
■ 自然 <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな自然、資源(■11) ・ 雪、雪質日本一(■3) ・ 星(天文台)(■3) ・ 自然を活かしたまちづくり ・ 四季 ・ 持続可能性(サステナビリティ) 	■ 人 <ul style="list-style-type: none"> ・ 若者、若い力(■3) ・ 活気 (■3) ・ やさしい、やさしさ(■2) ・ 思いやり、人があたたかい ・ 魅力 ・ 教育 ・ ひとり残さず
■ 暮らし・生活 <ul style="list-style-type: none"> ・ 住みたい住みやすい、暮らしやすい(■9) ・ 安心・安全(■7) ・ ちょうど良い(■2) ・ ネオ ローカル いなかを楽しむまちづくり ・ 心地よい、のびのび、せかせかしない、追われ ない、ガラガラしない ・ 退屈しない、あきない ・ 帰ってこれる(きたくなる)まち(福祉、教育 など) ・ 道北のJターンねらい ・ ただいま ・ 小さな街の利点を生かし、向こう三軒西隣の まちづくり ・ 参加しやすい ・ 除雪、医療、福祉、子育て、こども、お年寄り 	■ つながり <ul style="list-style-type: none"> ・ つながり、つながる(■5) ・ 共創(■2) ・ 連携 ・ 協働 ・ 助け合い ・ みんなでつくる、一緒
	■ 可能性 <ul style="list-style-type: none"> ・ “やってみたい”が叶う ・ 豊かな体験 ・ 未来を創る、挑戦 ・ 希望あふれる ・ 新たな産業創出 ・ 今までのまちづくりで培ったものを踏襲し発展 すること
■ イメージ <ul style="list-style-type: none"> ・ きらめく、ひかる ・ 耀く ・ なつかしい ・ 彩り ・ 魅力的 	■ 幸せ <ul style="list-style-type: none"> ・ 幸せ、幸福、幸福循環(■4) ・ 笑顔(■2) ・ 楽しい
■ 主体性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分事、主体性(■2) ・ まちを自ら創る、愛する人を増やすこと ・ インプットとアウトプット 外に目を向けよう 	■ 愛 <ul style="list-style-type: none"> ・ 愛 ・ 愛着
■ 魅力 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道北拠点 ・ 独自 ・ 名寄だけ ・ 差別化 ・ もち、白 	■ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ NAYORO(■2) ・ 持続可能性(サステナビリティ)

3 「名寄市の将来像」共感が多かった意見

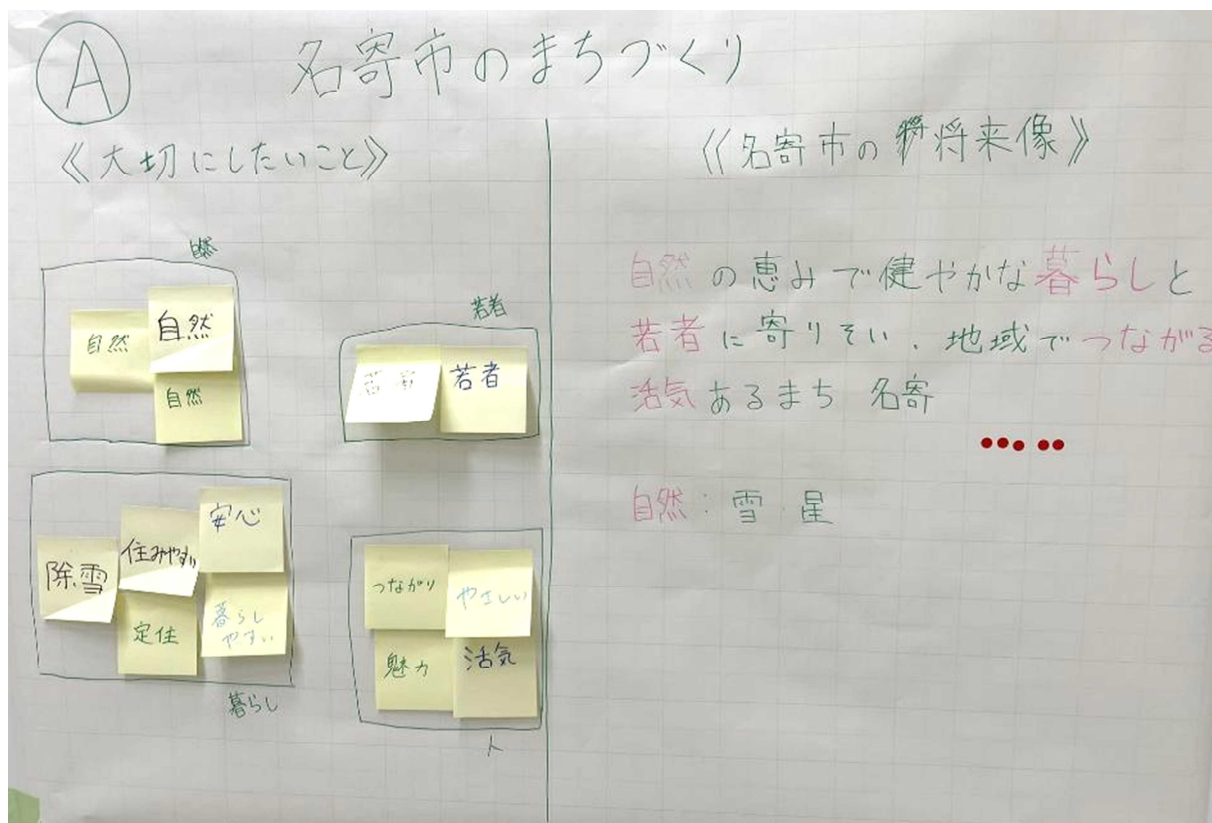
	名寄市の将来像	キーワード
1	<p>輝くまち NAYORO</p>	<p>「輝」:星のまたたきのような様子 雪・星・人=市のイメージ</p>
2	<p>「ここでいい」じゃなく「ここがいい！」 <u>つながり</u>を大切にする <u>幸せ</u>がつむぐまち 笑顔でただいま ナ、ヨロ!</p>	
3	<p>なよろって ①んか ②いまち ③ーかるだけど <u>笑顔</u> あふれる <u>～ ネオ ♥ ローカル ～</u></p>	<p>「ネオ ローカル」: いなかを楽しむまちづくり</p>
4	<p><u>未来</u>へのびゆく<u>愛</u> ～きらっと<u>輝</u>く名寄が好き。～</p>	<p>「未来」:子ども達、若者、明るい未来 「愛」:地域への愛着、つながり 「輝く」:希望、自然、ひと</p>
5	<p>自然 <u>NA</u> 笑顔 <u>YORO</u> こび きらめく みんながつながる都市へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然、住みやすさ ・名寄を誇張したい!!!

4 グループ別の意見

《Aグループ》

まちづくりで大切にしたいこと(カッコ内は付箋の数)	
■ 自然 ・ 自然(■3)	■ 若者 ・ 若者(■2)
■ 暮らし ・ 除雪 ・ 住みやすい ・ 定住 ・ 安心 ・ 暮らしやすい	■ 人 ・ つながり ・ やさしい ・ 魅力 ・ 活気

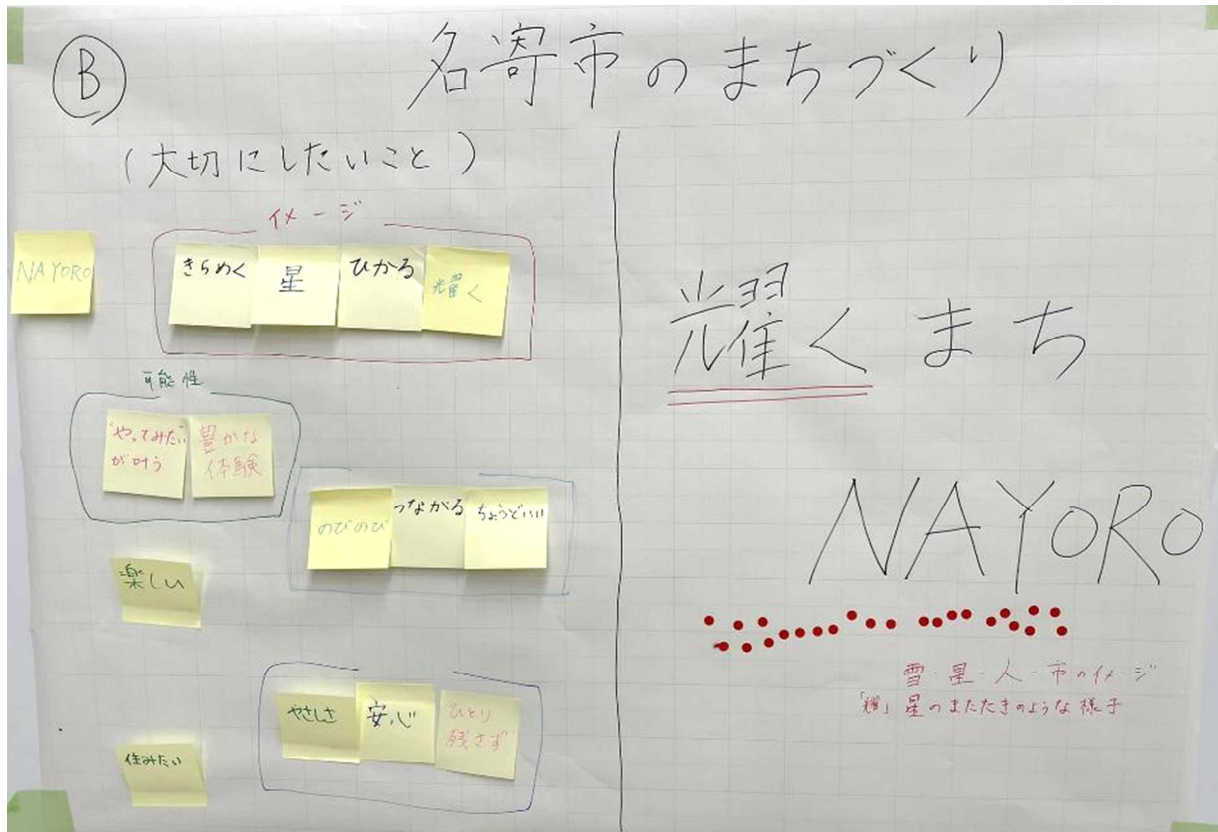
名寄市の将来像(●5)	
自然 の恵みで健やかな 暮らし と 若者 に寄りそい、地域で つながる 活気 あるまち 名寄	《キーワード》「自然」=雪、星



《Bグループ》

まちづくりで大切にしたいこと	
<p>■ イメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きらめく ・ 星 ・ ひかる ・ 耀く 	<p>■ (分類なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ のびのび ・ つながる ・ ちょうどいい
<p>■ 可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ “やってみたい”が叶う ・ 豊かな体験 	<p>■ (分類なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やさしさ ・ 安心 ・ ひとり残さず
<p>■ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NAYORO ・ 楽しい ・ 住みたい 	

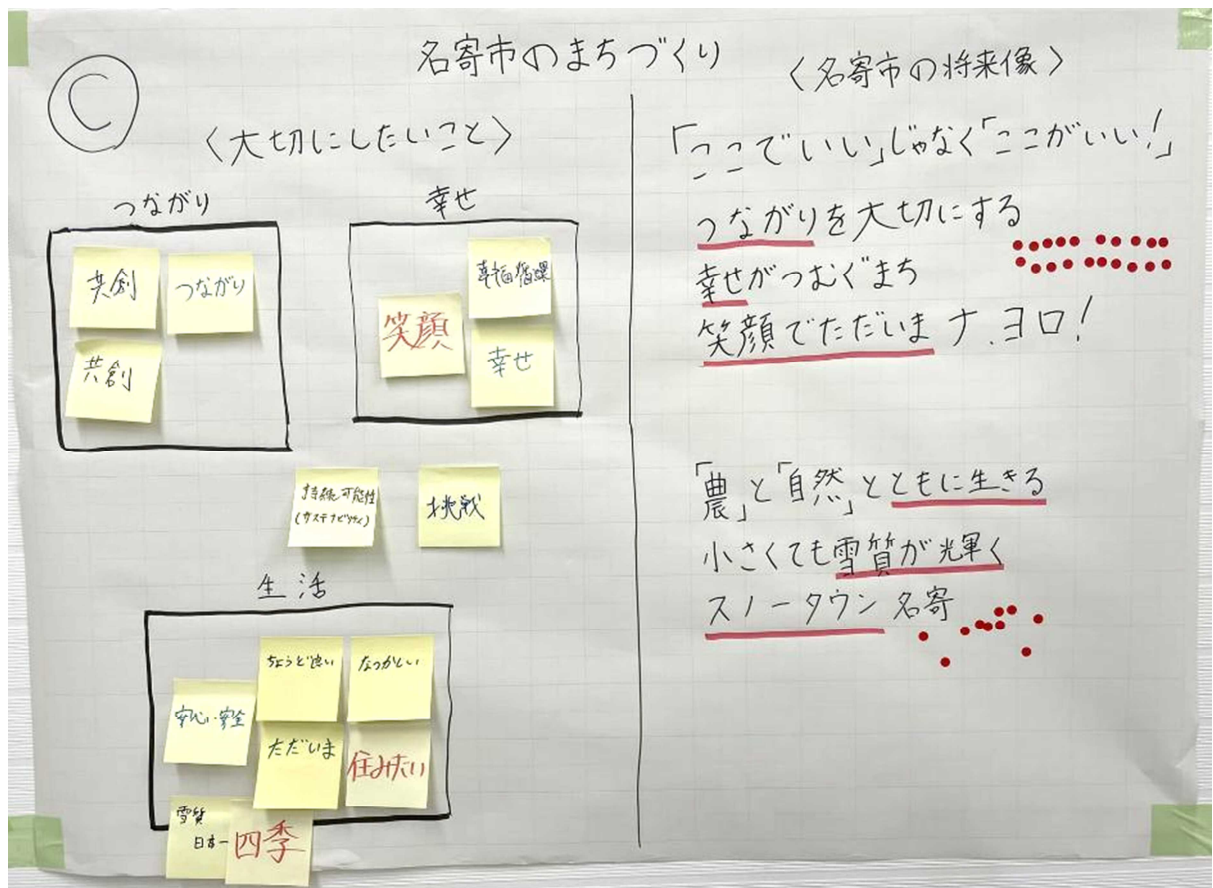
名寄市の将来像(●25)	
<p>耀くまち NAYORO</p>	<p>《キーワード》 「耀」:星のまたたきのような様子 雪・星・人=市のイメージ</p>



《Cグループ》

まちづくりで大切にしたいこと(カッコ内は付箋の数)	
<p>■ つながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共創(■2) ・ つながり 	<p>■ 生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安心・安全 ・ ちょうど良い ・ ただいま ・ なつかしい ・ 住みたい ・ 雪質日本一 ・ 四季
<p>■ 幸せ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔 ・ 幸福循環 ・ 幸せ 	
<p>■ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能性(サステナビリティ) ・ 挑戦 	

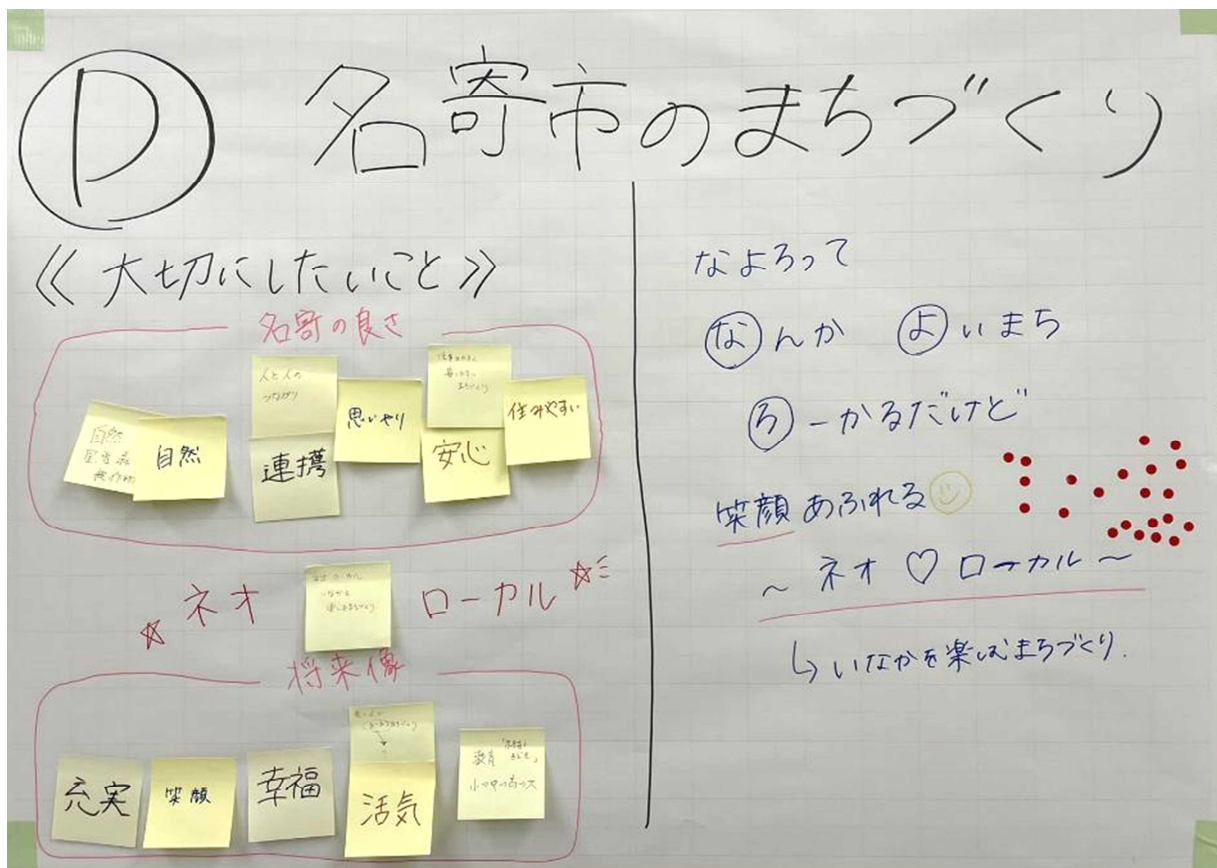
名寄市の将来像(左●20/右●10)	
<p>「ここでいい」じゃなく「ここがいい！」 <u>つながり</u>を大切にする <u>幸せ</u>がつむぐまち <u>笑顔</u>でただいま ナ、ヨロ!</p>	<p>「農業」と「自然」とともに生きる 小さくても<u>雪質が輝く</u> <u>スノータウン</u>名寄</p>



《Dグループ》

まちづくりで大切にしたいこと	
<p>■ 名寄の良さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然、星、雪、森、農作物 ・ 自然 ・ 人と人のつながり ・ 連携 ・ 思いやり ・ 住みやすく、暮らしやすいまちづくり ・ 住みやすい ・ 安心 	<p>■ 将来像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 充実 ・ 笑顔 ・ 幸福 ・ 活気 (←若い人が集まるまちづくり) ・ 教育「未来ある子ども」 小→中→高→大
	<p>■ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネオ ローカル いなかを楽しむまちづくり

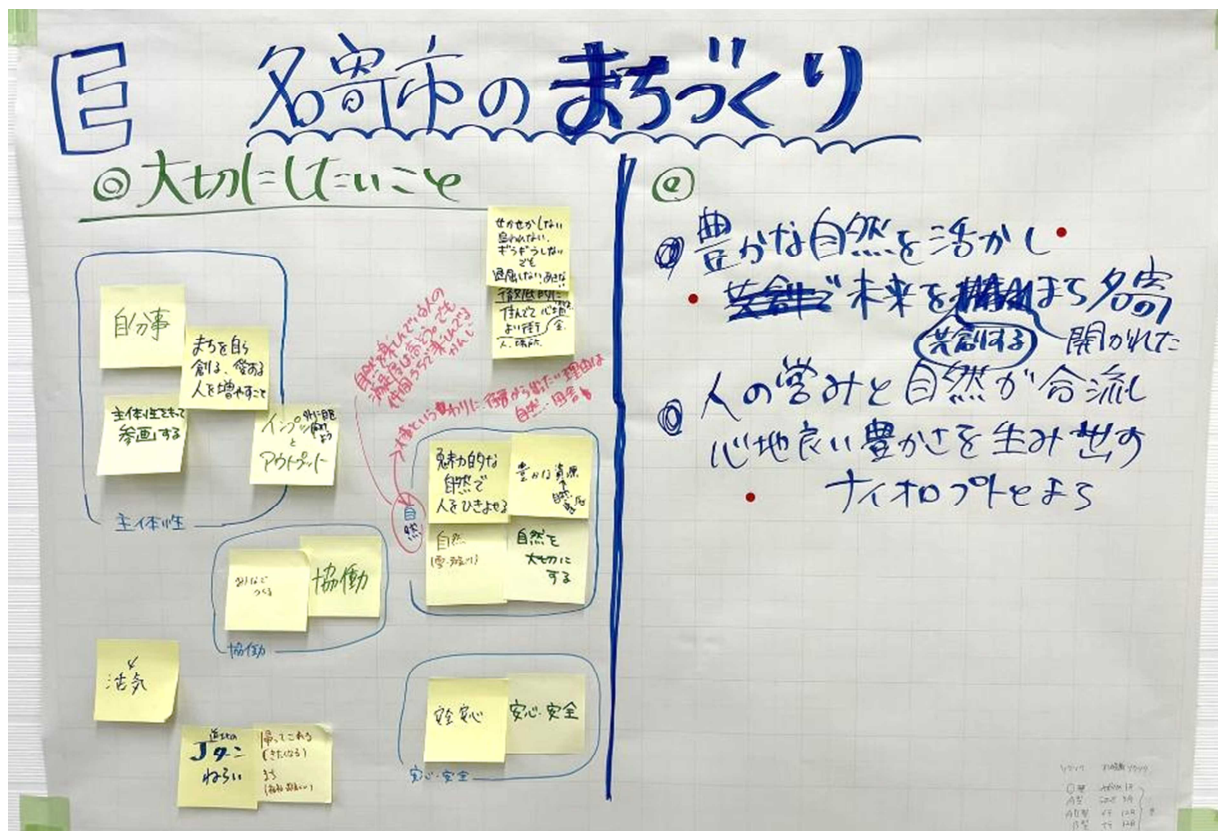
名寄市の将来像(●22)	
<p>なよろって (な)んか (よ)いまち (ろ)ーかるだけど 笑顔 あふれる <u>～ ネオ ♡ ローカル ～</u></p>	<p>《キーワード》 「ネオ ローカル」 いなかを楽しむまちづくり</p>



《Eグループ》

まちづくりで大切にしたいこと(カッコ内は付箋の数)	
<p>■ 自然</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然を楽しんでいる人の満足度は高そう。でも、仲間うちで楽しんでいる感じ 大事というわりに、街からでたい理由は自然、田舎 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> 魅力的な自然で人をひきよせる 豊かな資源 ←自然、雪、食 自然(雪、天塩川) 自然を大切にする 	<p>■ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 活気 道北のJターンねらい 帰ってこれる(きたくなる)まち(福祉、教育など) せかせかしない、追われない、ギラギラしない、でも退屈しない、あきない 徹底的に住んでて、心地よい街(ほどよい) 金、人、場所
<p>■ 主体性</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分事 まちを自ら創る、愛する人を増やすこと 主体性をもって参画する インプットとアウトプット 外に目を向けよう 	<p>■ 協働</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなでつくる、協働 <hr/> <p>■ 安心・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心・安全 (■2)

名寄市の将来像(左●2/右●1)	
<p>豊かな自然を活かし 未来を共創する開かれたまち名寄</p>	<p>人の営みと自然が合流し 心地よい豊かさを生み出す ナイオロプトとまち</p>



《Fグループ》

まちづくりで大切にしたいこと	
<p>■ 自然</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊富な自然資源 ・ せっかく自然があるのでそれをいかしたまちづくり 	<p>■ 愛</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 愛 ・ 愛着
<p>■ (分類名なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未来を創る ・ 希望あふれる 	<p>■ (分類名なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 彩り ・ 魅力的
<p>■ (分類名なし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小さな街の利点を生かし、向こう三軒西隣りのまちづくり ・ 一緒 ・ 繋がり 	<p>■ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若者(若い力) ・ 新たな産業創出 ・ 今までのまちづくりで培ったものを踏襲し発展すること ・ 寄る

名寄市の将来像(●30)	
<p>未来へのびゆく愛 ～きらっと輝く名寄が好き。～</p>	<p>《キーワード》 「未来」:子ども達、若者、明るい未来 「愛」:地域への愛着、つながり 「輝く」:希望、自然、ひと</p>

《Gグループ》

まちづくりで大切にしたいこと(カッコ内は付箋の数)	
<p>■ 魅力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道北拠点 ・ NAYORO ・ 独自 ・ 名寄だけ ・ 差別化 	<p>■ 安心・安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かんげい ・ 参加しやすい ・ 住みやすい街、住みやすさ ・ 安心安全 (■2) ・ 助け合い、人があたたかい
<p>■ 自然</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然 (■3) ・ 雪 (■2) ・ 星(天文) (■2) ・ 大河 ※現在活かされていない 	<p>■ 生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療、福祉 ・ 子育て ・ こども お年寄り
<p>■ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もち ・ 白 	

名寄市の将来像(●28)	
<p>自然 NA 笑顔 YORO こび きらめく みんながつながる都市へ</p>	<p>《キーワード》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然、住みやすさ ・名寄を誇張したい!!!

